

5. 介護人材の確保、介護現場の生産性向上の推進に関する調査結果

(1) 多様な介護人材の確保・育成

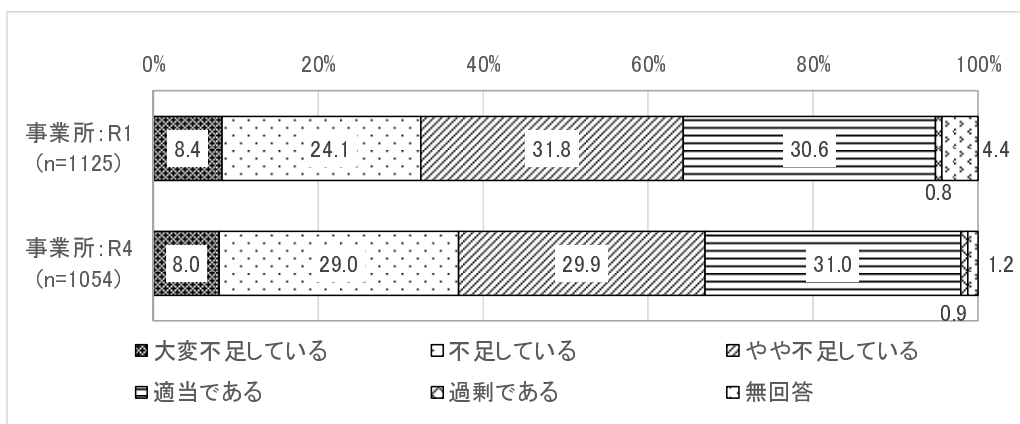
① 職員の過不足の状況

貴事業所における現在の職員の過不足についてお答えください。(○は1つ) 【E-問18】

【全体結果の傾向】

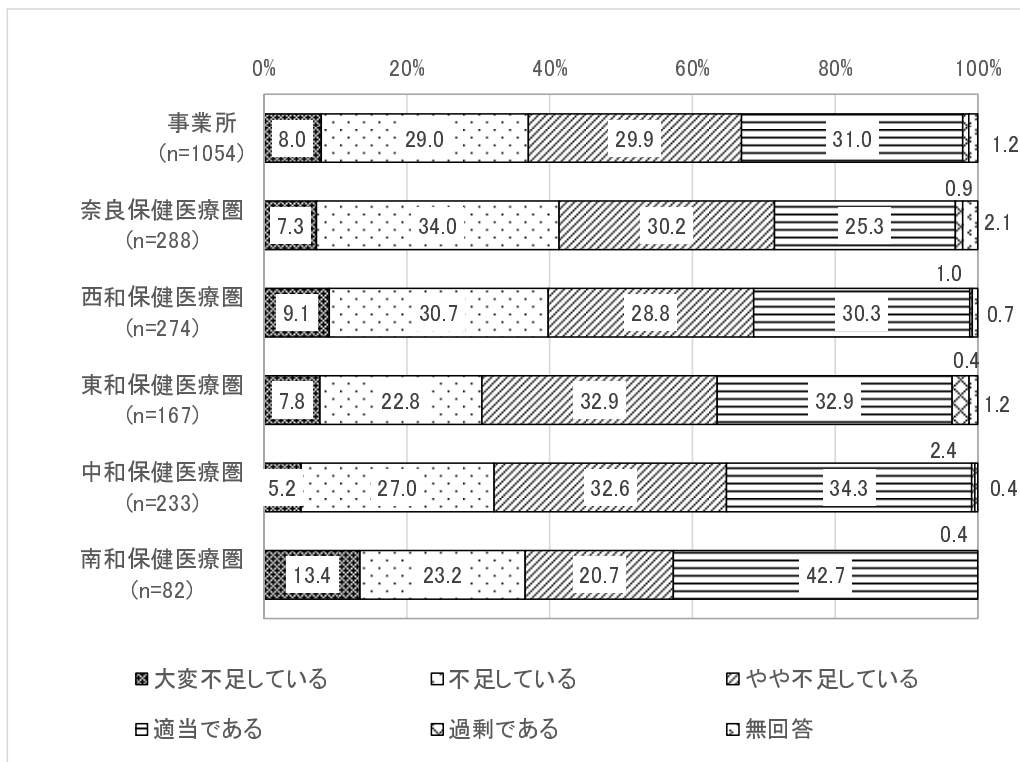
「大変不足している」が8.0%、「不足している」が29.0%、「やや不足している」が29.9%と、職員が不足している割合は66.9%、「適当である」が31.0%、「過剰である」が0.9%となっています。

前回調査と比較すると「不足している」が4.9ポイント有意に高くなっています。



【圏域別の傾向】

圏域別にみると、南和保健医療圏は「適当である」(42.7%)が全体結果と比較して有意に高くなっています。



② 職員定着のための取り組み

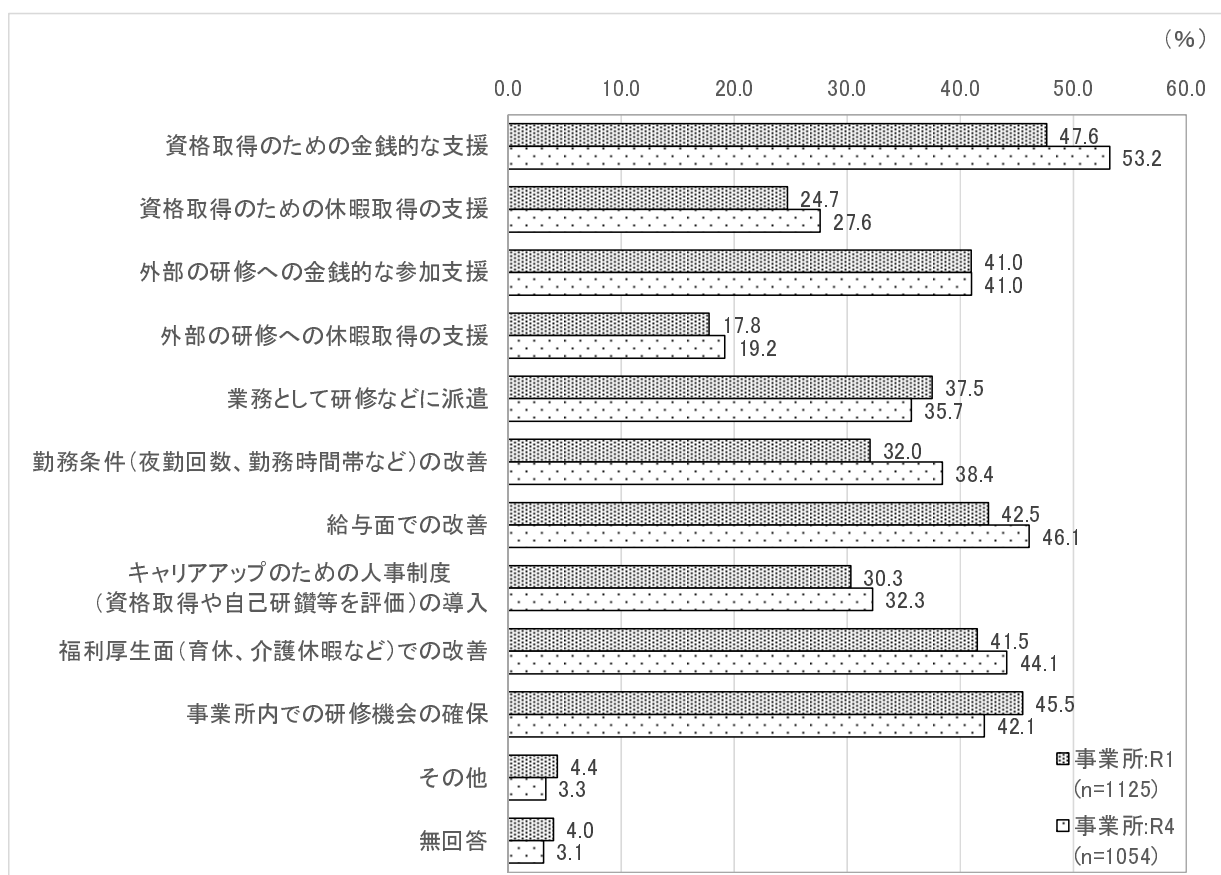
貴事業所で職員定着のためにに行っている取り組みはどのようなことがありますか。

(〇はいくつでも) 【E-問22】

【全体結果の傾向】

事業所における職員定着のためにに行っている取り組みの上位3位は、「資格取得のための金銭的な支援」(53.2%)、「給与面での改善」(46.1%)、「福利厚生面(育休、介護休暇など)での改善」(44.1%)となっています。

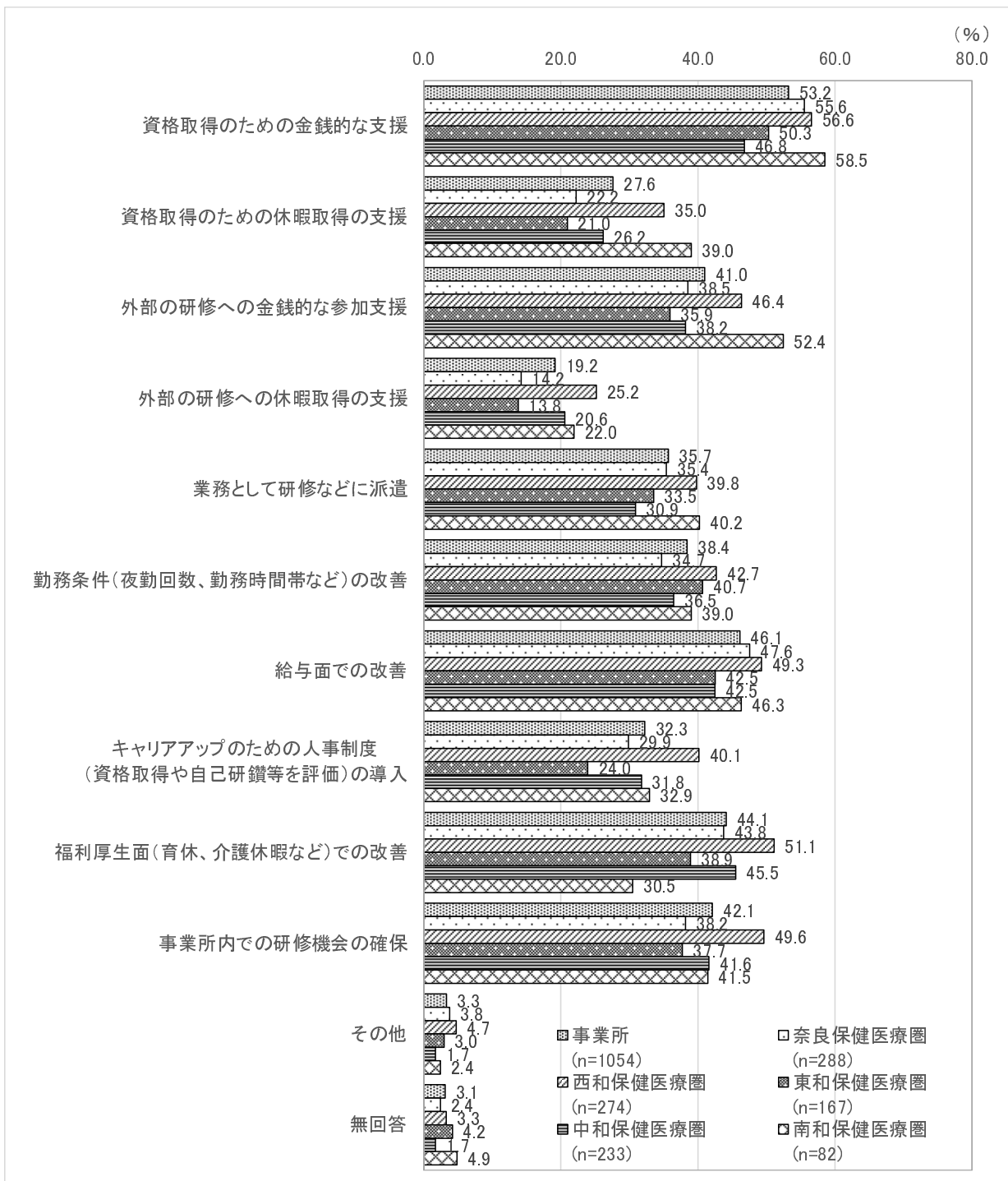
前回調査と比較すると、「資格取得のための金銭的な支援」と「勤務条件(夜勤回数、勤務時間帯など)の改善」が有意に高くなっています。



【圏域別の傾向】

圏域別にみると、西和保健医療圏では「資格取得のための休暇取得の支援」(35.0%)、「外部の研修への休暇取得の支援」(25.2%)、「キャリアアップのための人事制度(資格取得や自己研鑽等を評価)の導入」(40.1%)、「福利厚生面(育休、介護休暇など)での改善」(51.1%)、「事業所内での研修機会の確保」(49.6%)が全体結果に比べて有意に高くなっています。

一方、東和保健医療圏では「キャリアアップのための人事制度(資格取得や自己研鑽等を評価)の導入」(24.0%)が全体結果に比べて有意に低くなっています。南和保健医療圏では「資格取得のための休暇取得の支援」(39.0%)は全体結果に比べて有意に高い反面、「福利厚生面(育休、介護休暇など)での改善」(30.5%)は有意に低くなっています。



③ 雇用管理の状況

貴事業所の雇用管理の状況についてお教えてください。

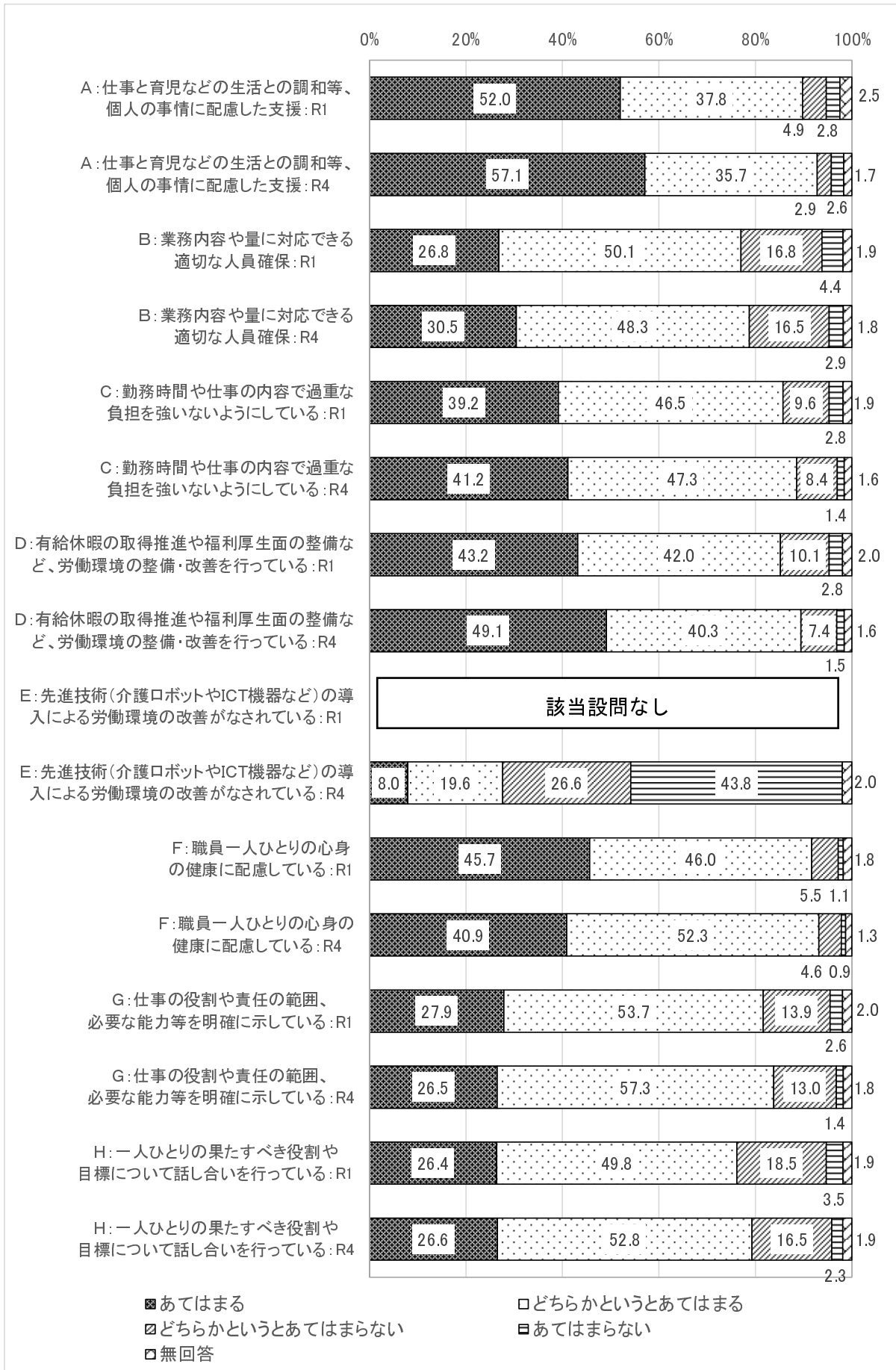
(以下のA～Pのそれぞれについて、○は1～4のいずれか1つ) 【E-問17】

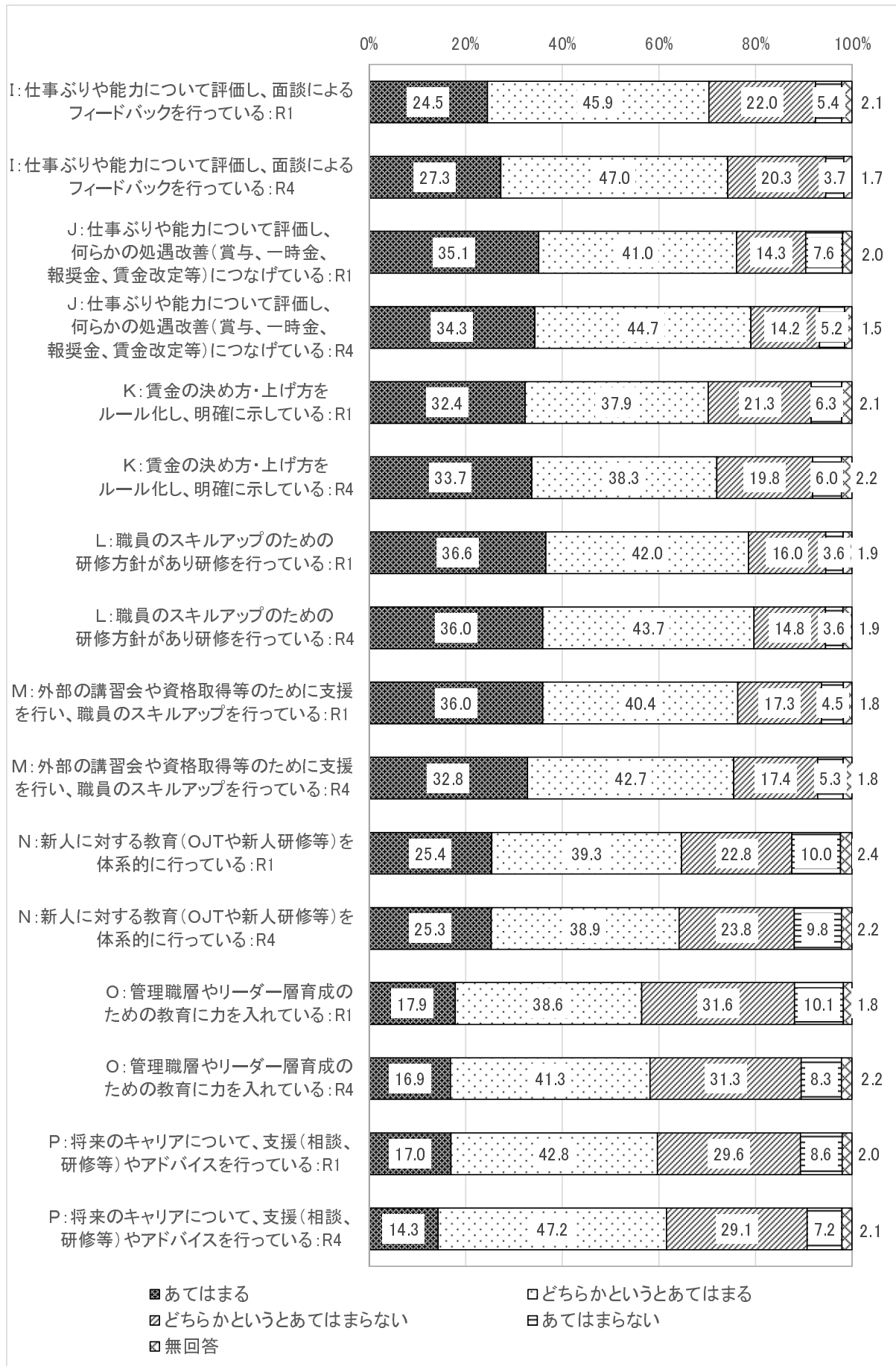
【全体結果の傾向】

事業所における各種雇用管理の状況について、「あてはまる」と「どちらかというにあてはまる」割合を合計した「あてはまる割合」、「どちらかというにあてはまらない」と「あてはまらない」割合を合計した「あてはまらない割合」で見ると、『E：先進技術（介護ロボットやICT機器など）の導入による労働環境の改善がなされている』『N：新人に対する教育（OJTや新人研修等）を体系的に行っている』『O：管理職層やリーダー層育成のための教育に力を入れている』『P：将来のキャリアについて、支援（相談、研修等）やアドバイスを行っている』以外のすべての項目で「あてはまる割合」が70%以上を占めており、特に『A：仕事と育児などの生活との調和等、個人の事情に配慮した支援』（92.8%）、『F：職員一人ひとりの心身の健康に配慮している』（93.2%）は90%以上となっています。

一方、『E：先進技術（介護ロボットやICT機器など）の導入による労働環境の改善がなされている』は27.6%にとどまっています。

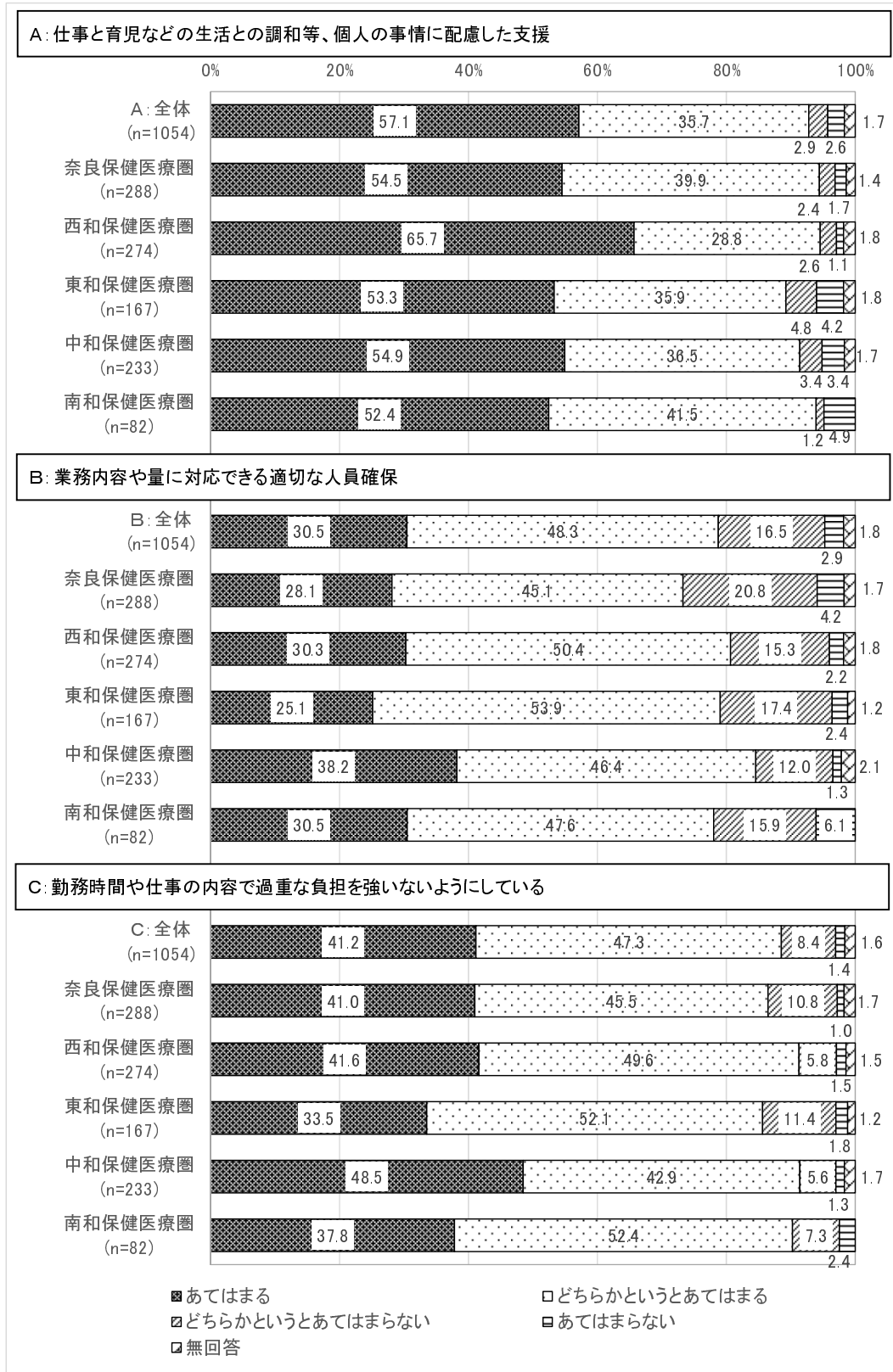
前回調査と比較しても有意な差は見られません。



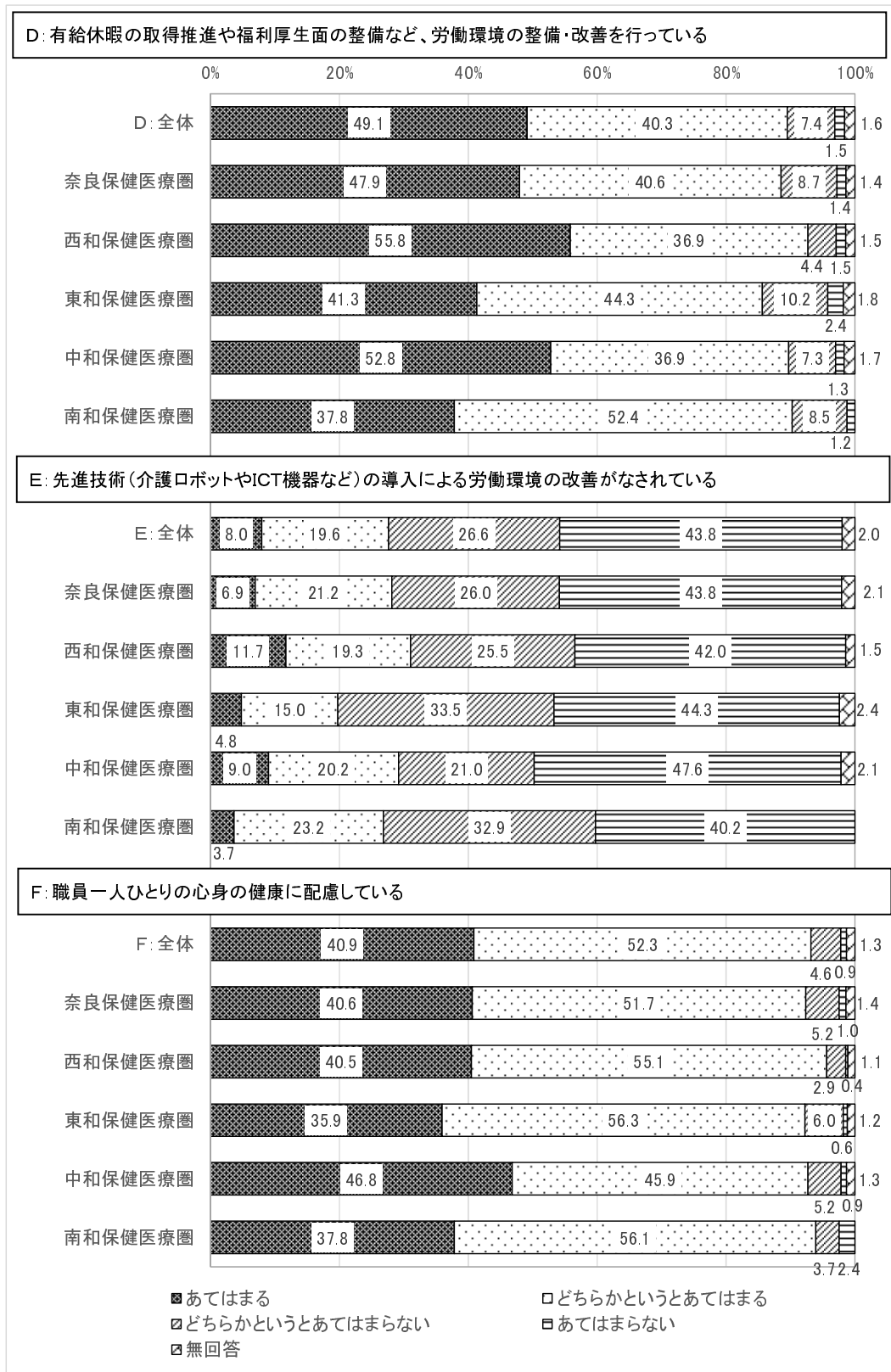


【圏域別の傾向】

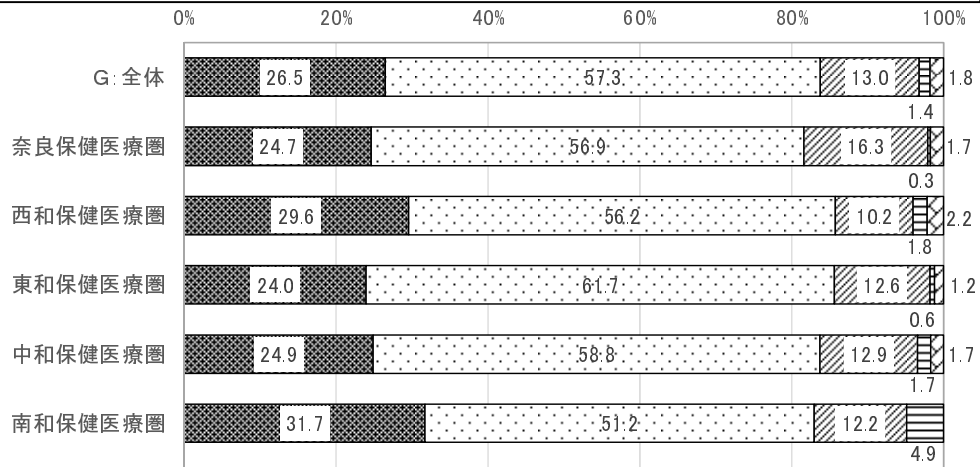
圏域別にみると、『B：業務内容や量に対応できる適切な人員確保』の奈良保健医療圏では「あてはまらない割合」が25.0%と全体結果に比べて有意に高くなっています。



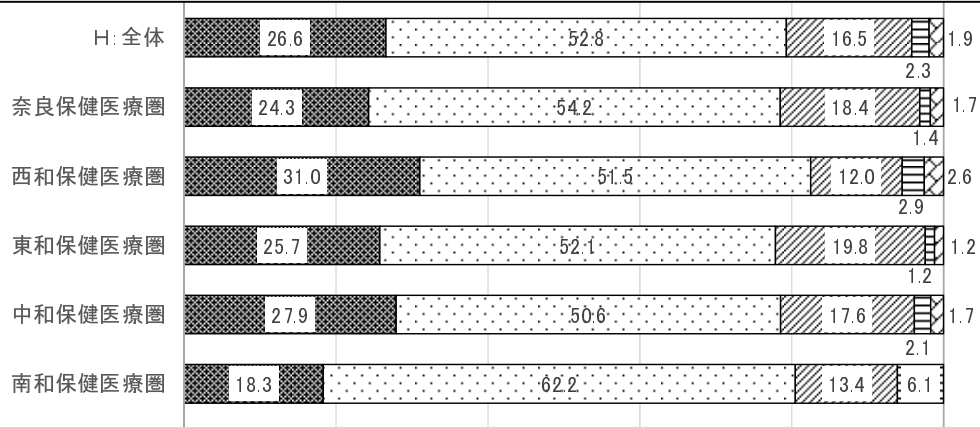
『E：先進技術（介護ロボットやICT機器など）の導入による労働環境の改善がなされている』の東和保健医療圏では「あてはまる割合」が19.8%と全体結果に比べて有意に低くなっています。



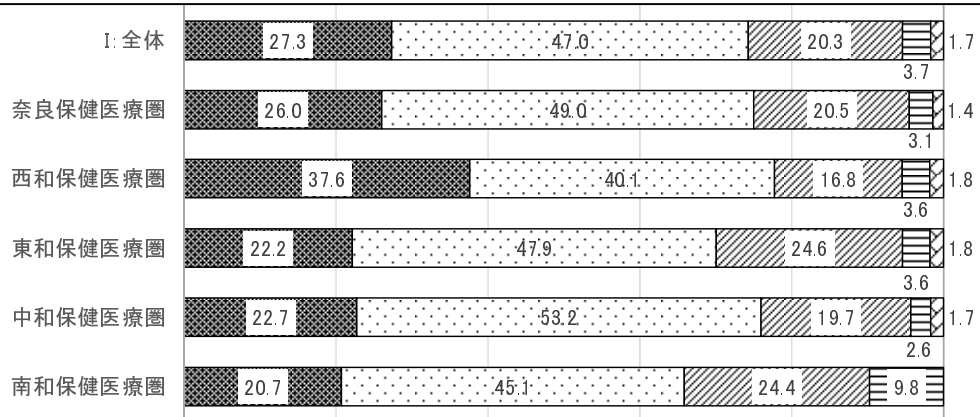
G: 仕事の役割や責任の範囲、必要な能力等を明確に示している



H: 一人ひとりの果たすべき役割や目標について話し合いを行っている

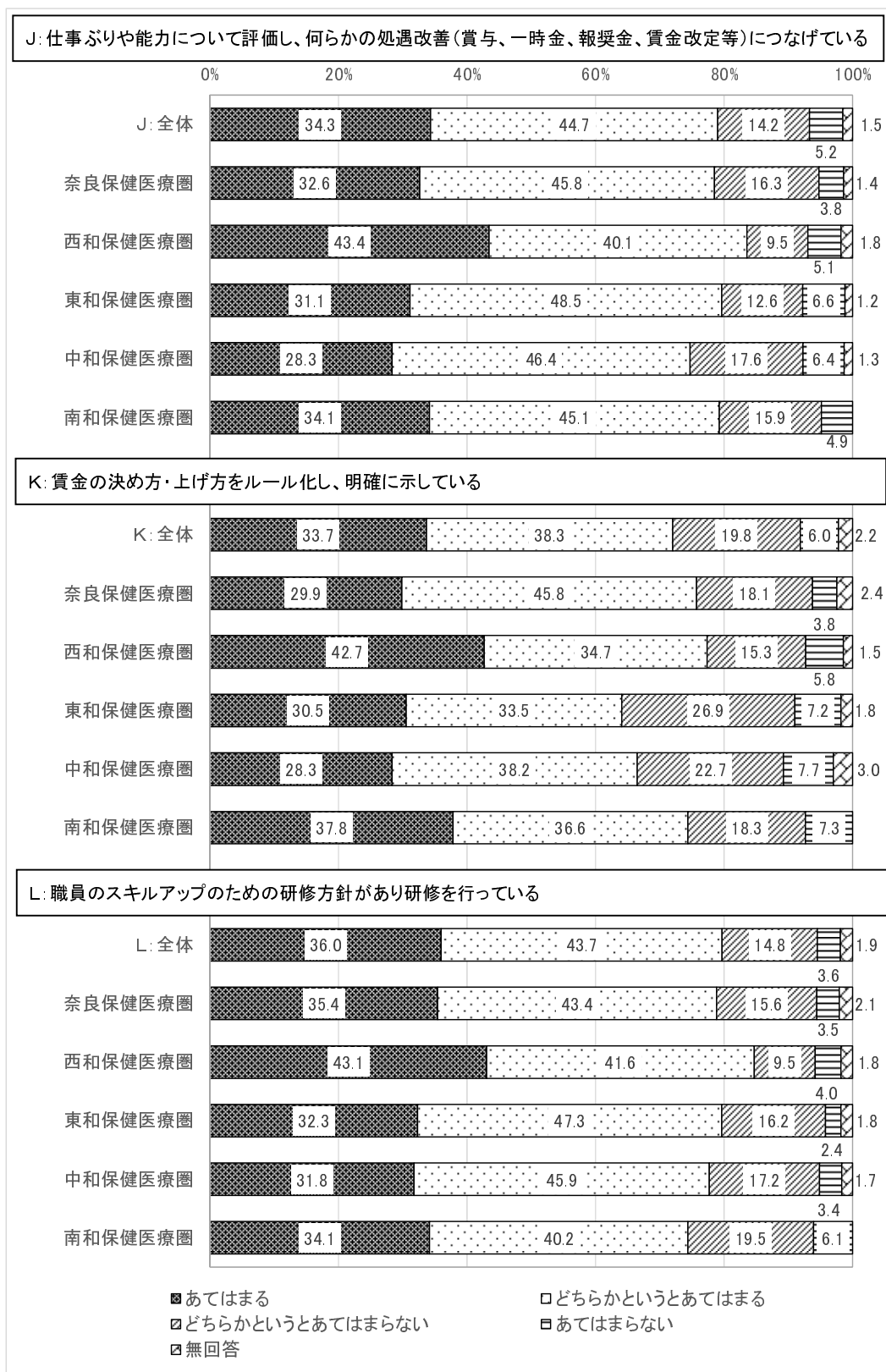


I: 仕事ぶりや能力について評価し、面談によるフィードバックを行っている

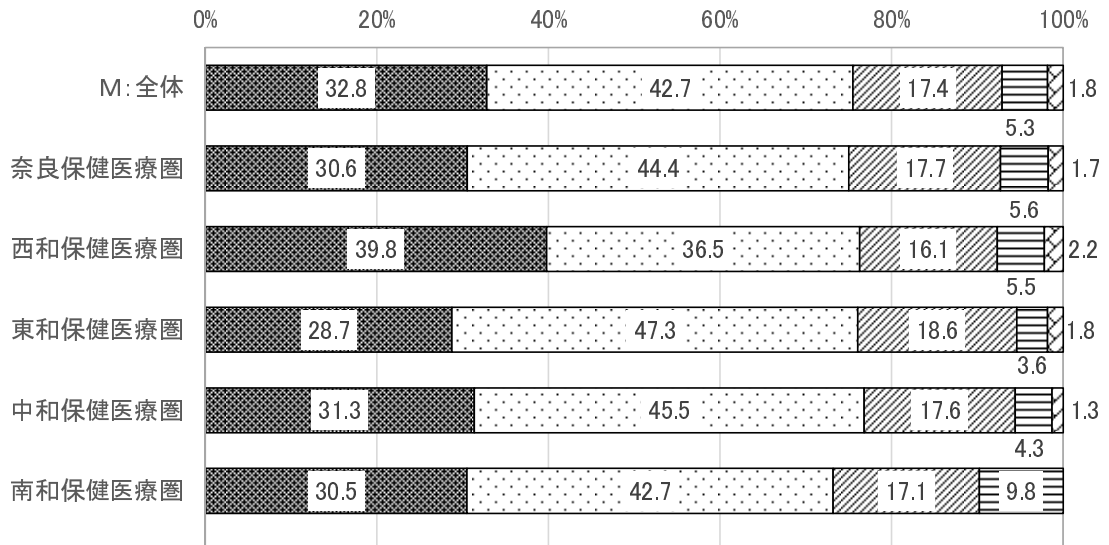


- あてはまる
- ▨ どちらかというにあてはまらない
- 無回答
- ▨ どちらかというにあてはまる
- あてはまらない

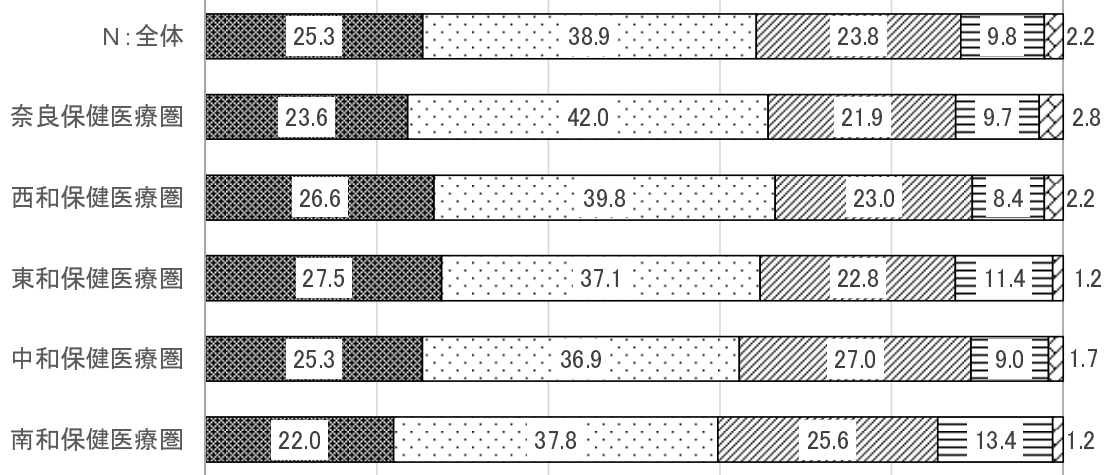
『K：賃金の決め方・上げ方をルール化し、明確に示している』の東和保健医療圏では「あてはまる割合」が64.0%と全体結果に比べて有意に高い反面、「あてはまらない割合」も34.1%と高くなっています。



M: 外部の講習会や資格取得等のために支援を行い、職員のスキルアップを行っている

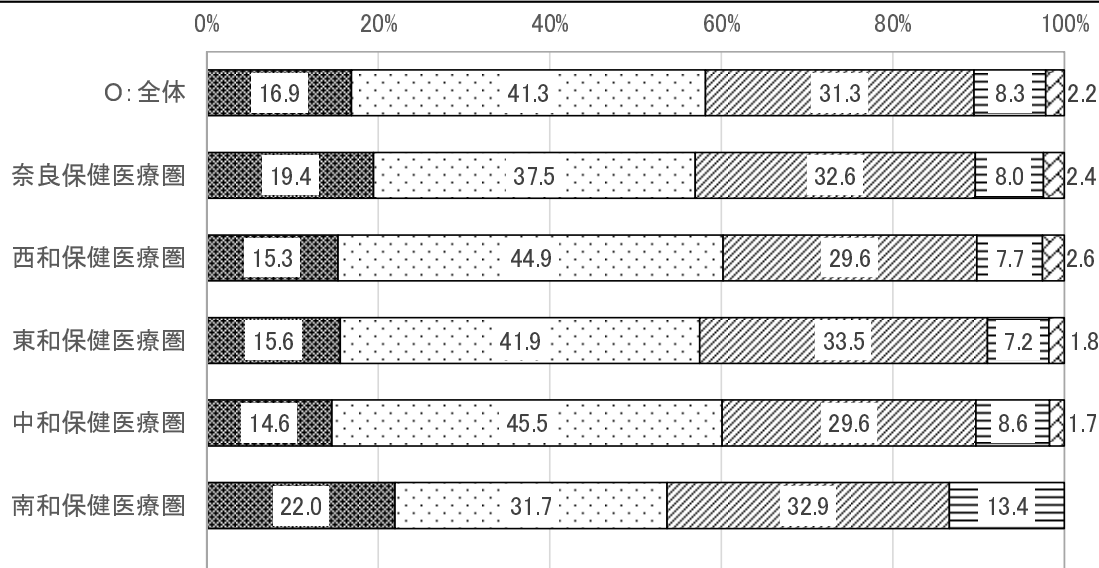


N: 新人に対する教育(OJTや新人研修等)を体系的に行っている

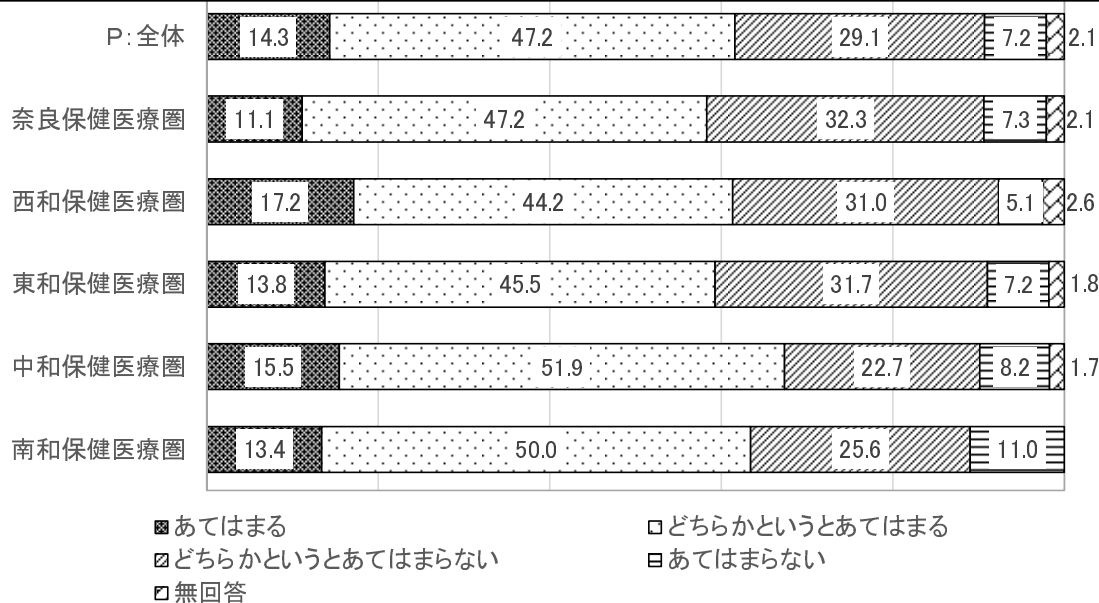


- あてはまる
- ▨ どちらかというにあてはまらない
- 無回答
- どちらかというにあてはまる
- ▨ あてはまらない

○:管理職層やリーダー層育成のための教育に力を入れている



P:将来のキャリアについて、支援(相談、研修等)やアドバイスを行っている



あてはまる
 どちらかというにあてはまらない
 無回答
 どちらかというにあてはまる
 あてはまらない

④ 高齢労働者の受入に対する考え

高齢労働者の受け入れについて、貴事業所としてどのように考えていますか。

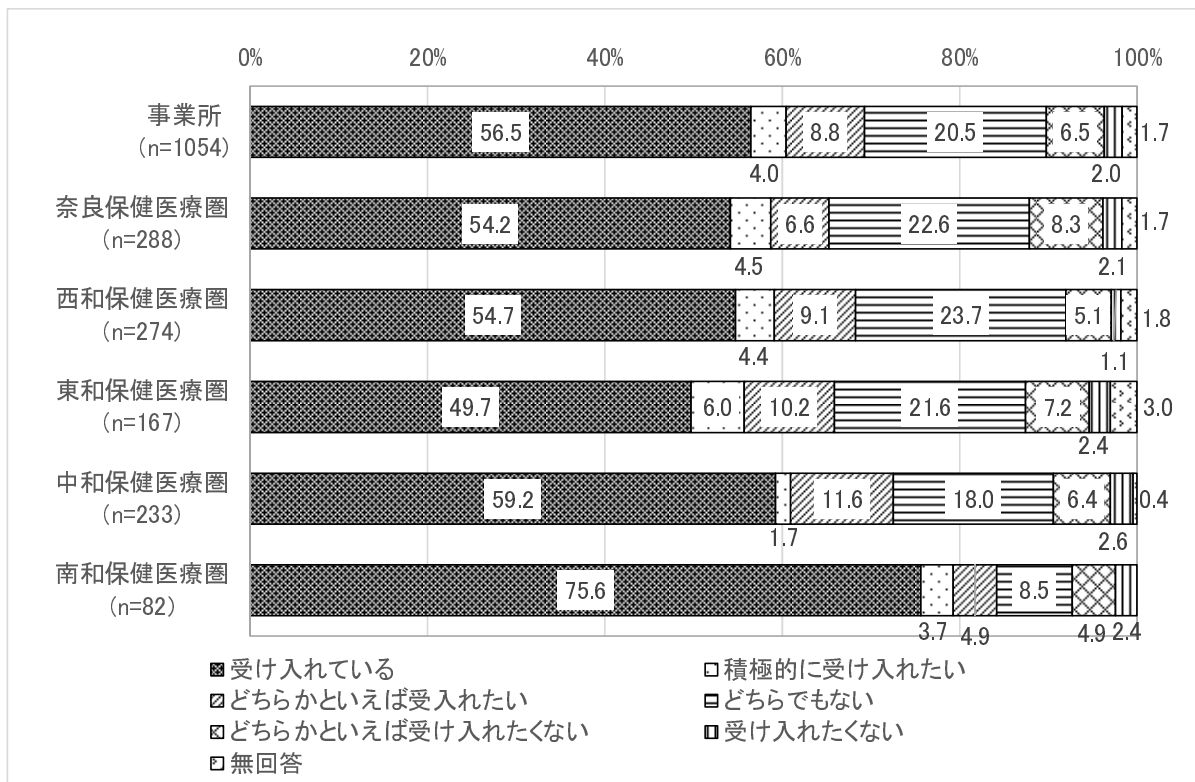
(○は1つ) 【E-問26】

【全体結果の傾向】

事業所における高齢労働者の受け入れについては、「受け入れている」が56.5%、「積極的に受け入れたい」が4.0%、「どちらかといえば受け入れたい」が8.8%と、受け入れ意向がある事業所が69.3%を占めています。一方、「どちらかといえば受け入れたくない」が6.5%、「受け入れたくない」が2.0%と、受け入れ意向がない事業所は8.5%にとどまっています。

【圏域別の傾向】

圏域別にみると、南和保健医療圏では受け入れ意向がある事業所が84.2%と全体結果に比べて有意に高くなっています。



⑤ 外国人労働者の受入状況

あなたが従事する事業所は、外国人労働者を受け入れていますか。(どちらかに○)

【E-問 28、F-問 22】

【全体結果の傾向】

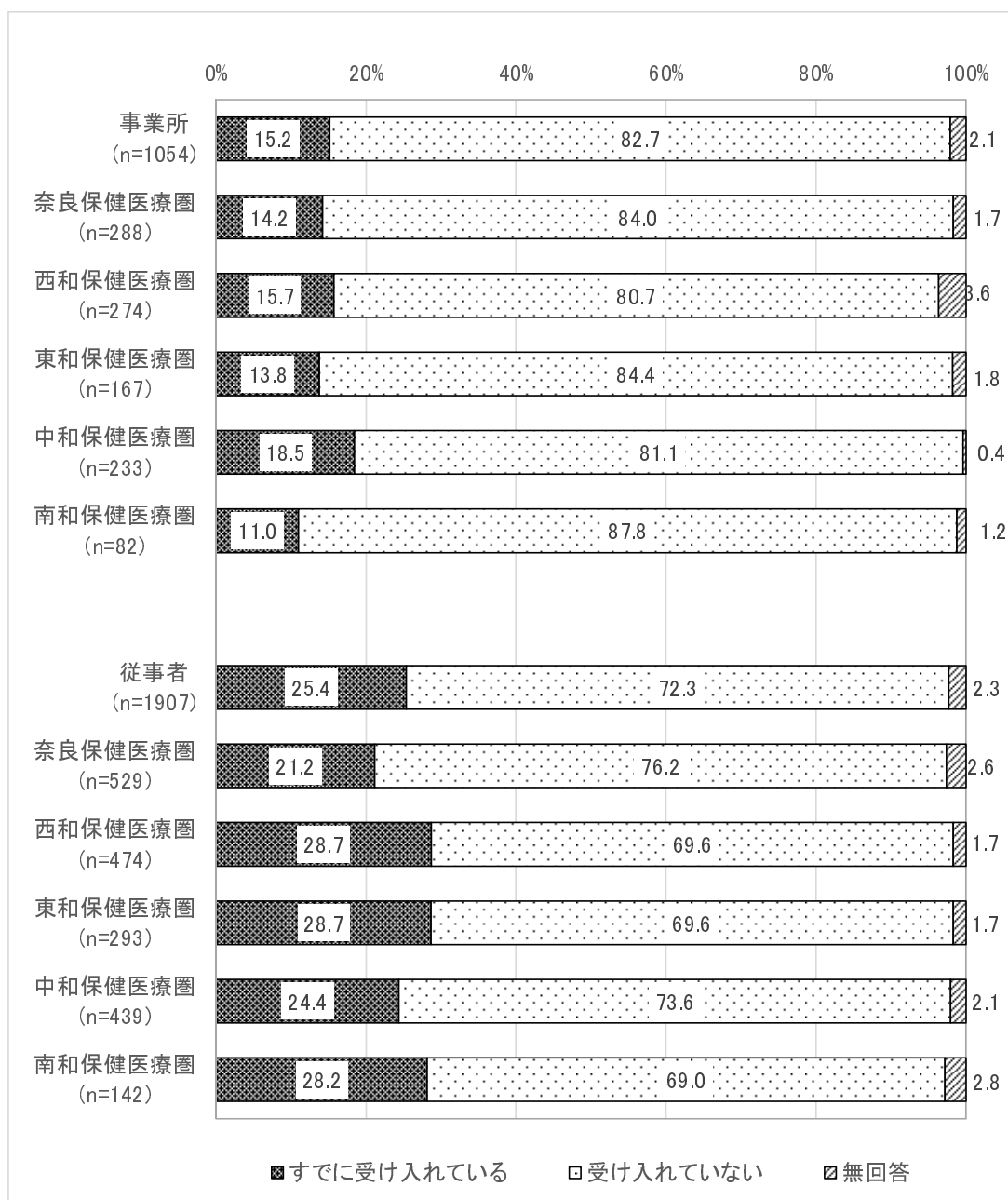
事業所における外国人労働者の受入状況は、「すでに受け入れている」が15.2%、「受け入れていない」が82.7%となっています。

従事者側からみた外国人労働者の受入状況は、「すでに受け入れている」が25.4%、「受け入れていない」が72.3%となっています。

事業所よりも従事者の方が「すでに受け入れている」が有意に高くなっています。

【圏域別の傾向】

圏域別にみると、いずれの圏域でも全体結果と比較して有意な差は見られません。



⑥ 外国人労働者の受入に対する考え

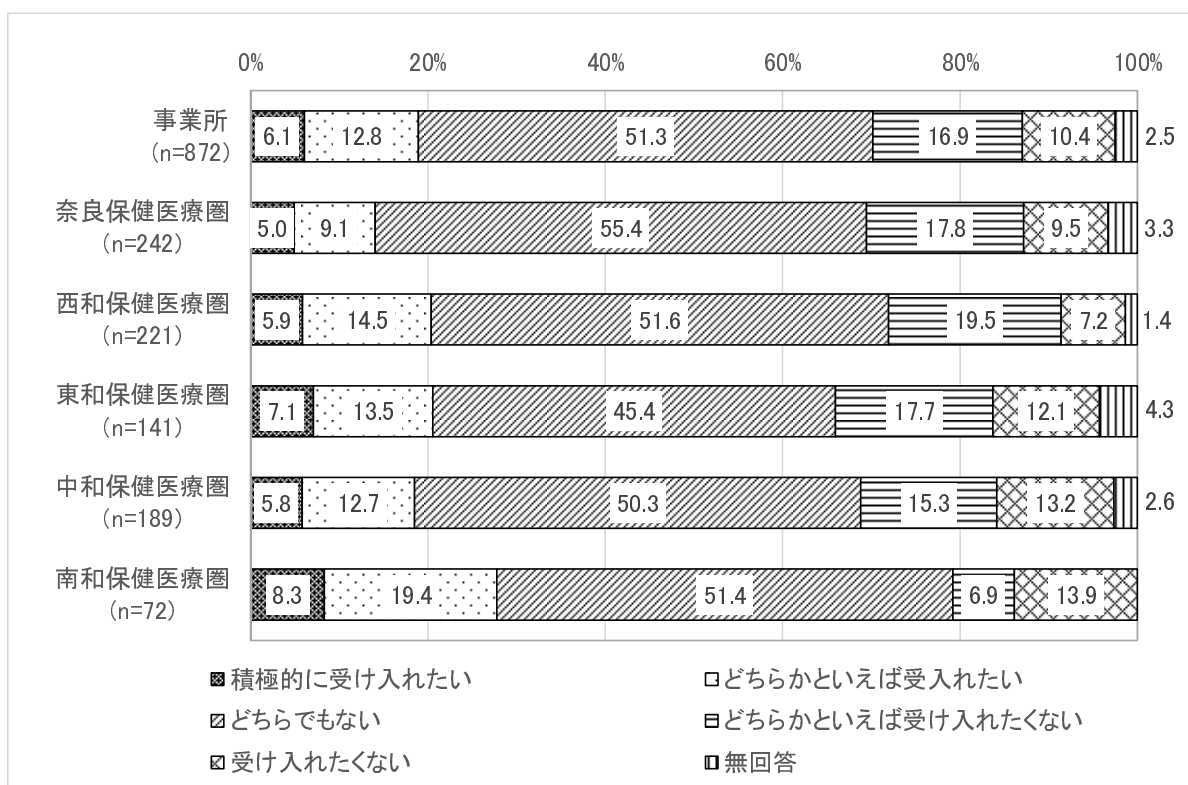
問 28 (p 169) で選択肢「2 受け入れていない」とお答えの事業所にお聞きします。
外国人労働者の受入について、貴事業所としてどのように考えていますか。(〇は1つ)【E-問 30】

【全体結果の傾向】

外国人労働者を「受け入れていない」と回答した事業所に対して、受入についての考えを尋ねたところ、「積極的に受け入れたい」が6.1%、「どちらかといえば受け入れたい」が12.8%と、受け入れ意向がある事業所が18.9%であるのに対して、「どちらかといえば受け入れたくない」が16.9%、「受け入れたくない」が10.4%と、受け入れ意向がない事業所が27.3%となっています。

【圏域別の傾向】

圏域別にみると、いずれの圏域でも全体結果に比べて有意な差は見られません。



⑦ 介護職を選んだ理由

あなたが介護の仕事を選んだ理由は何ですか。(〇はいくつでも) 【F-問12】

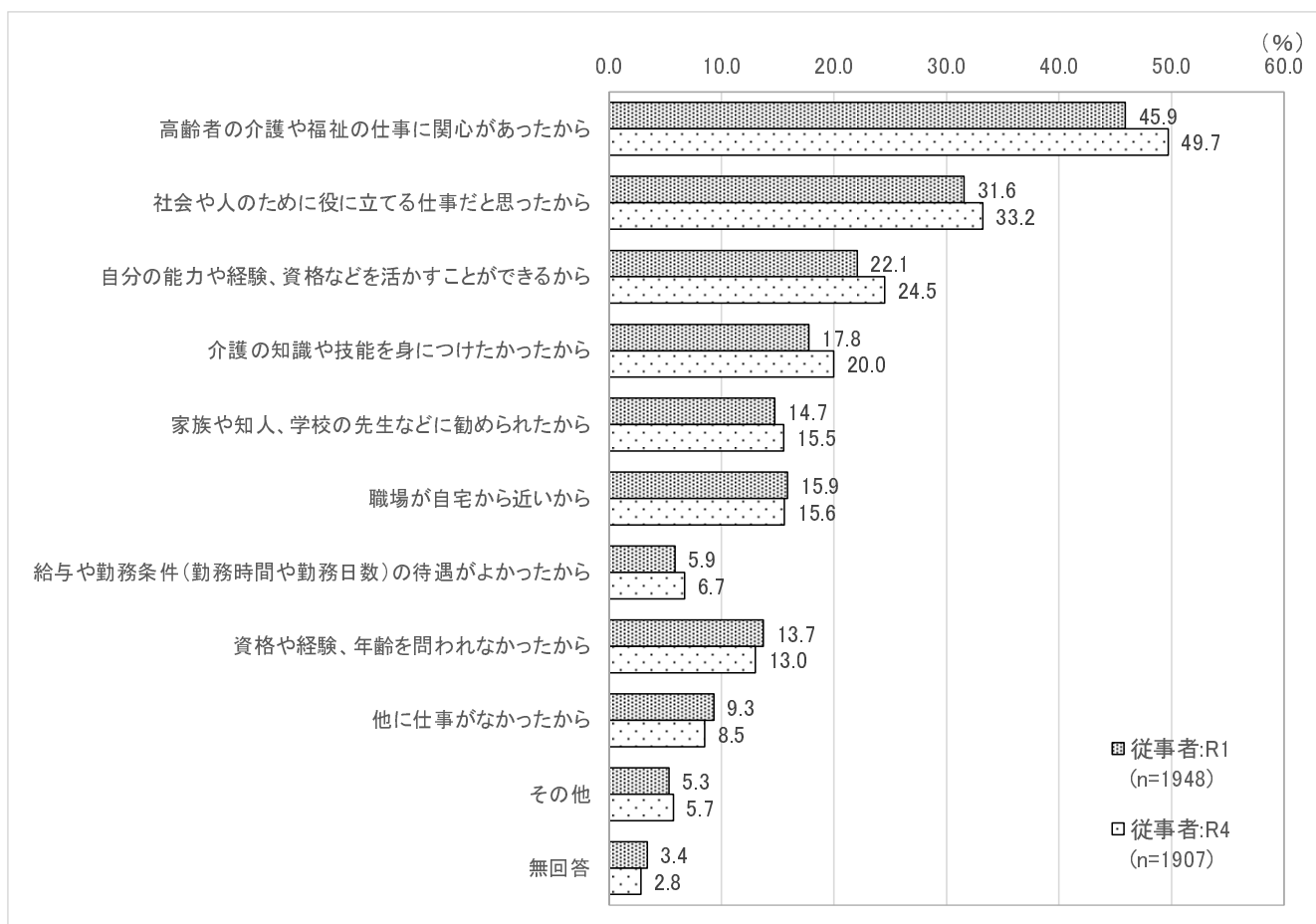
【全体結果の傾向】

従事者が介護の仕事を選んだ理由の上位3位は「高齢者の介護や福祉の仕事に関心があったから」(49.7%)、「社会や人のために役に立てる仕事だと思ったから」(33.2%)、「自分の能力や経験、資格などを活かすことができるから」(24.5%)となっています。

前回調査と比較すると、「高齢者の介護や福祉の仕事に関心があったから」が3.8ポイント有意に高くなっています。

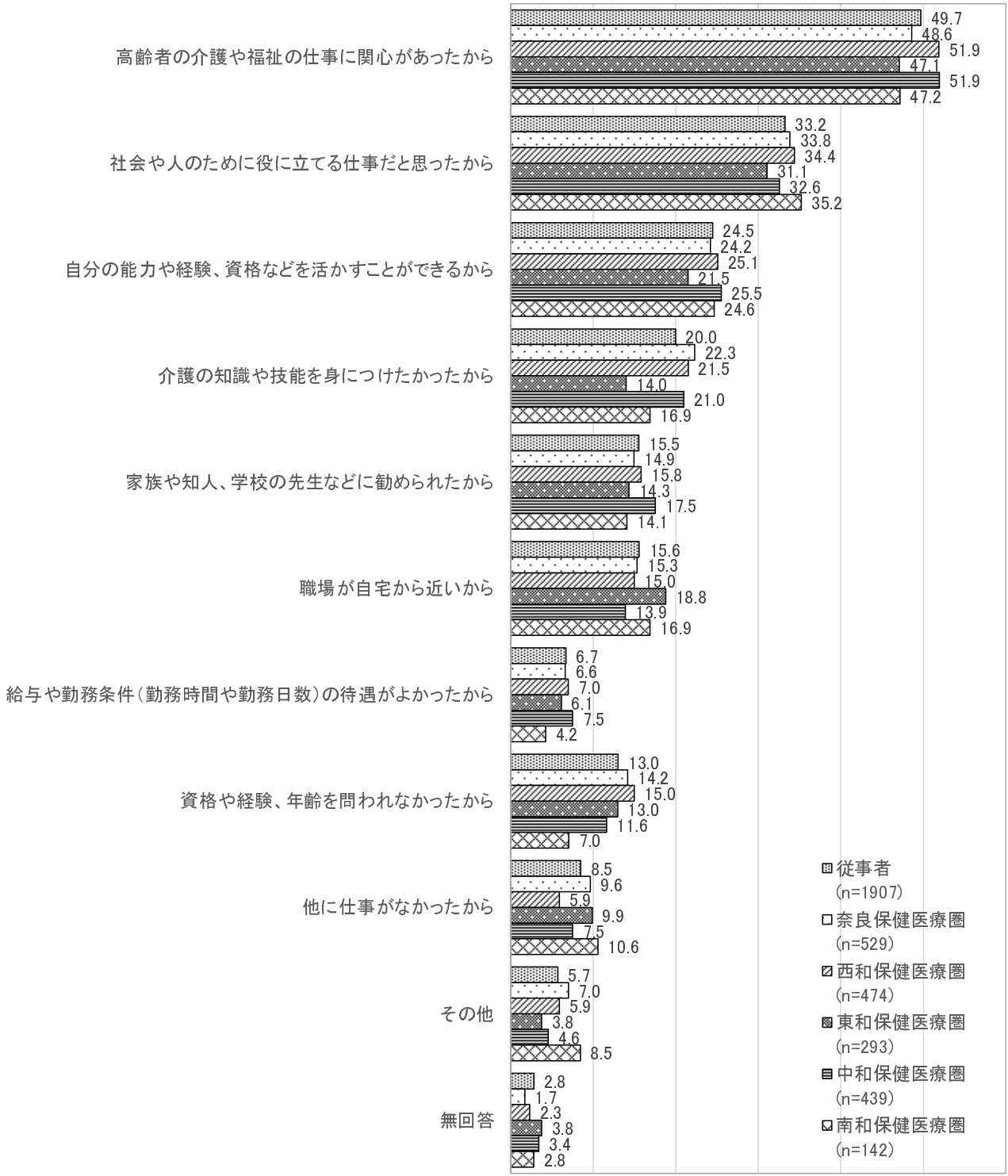
【圏域別の傾向】

圏域別にみると、いずれの圏域でも全体結果と比較して有意な差は見られません。



(%)

0.0 10.0 20.0 30.0 40.0 50.0 60.0



⑧ 従業員側からみた職場の雇用管理の状況

職場環境についてお教えてください。

(以下のA～Pのそれぞれについて、○は1～4のいずれか1つ) 【F-問15】

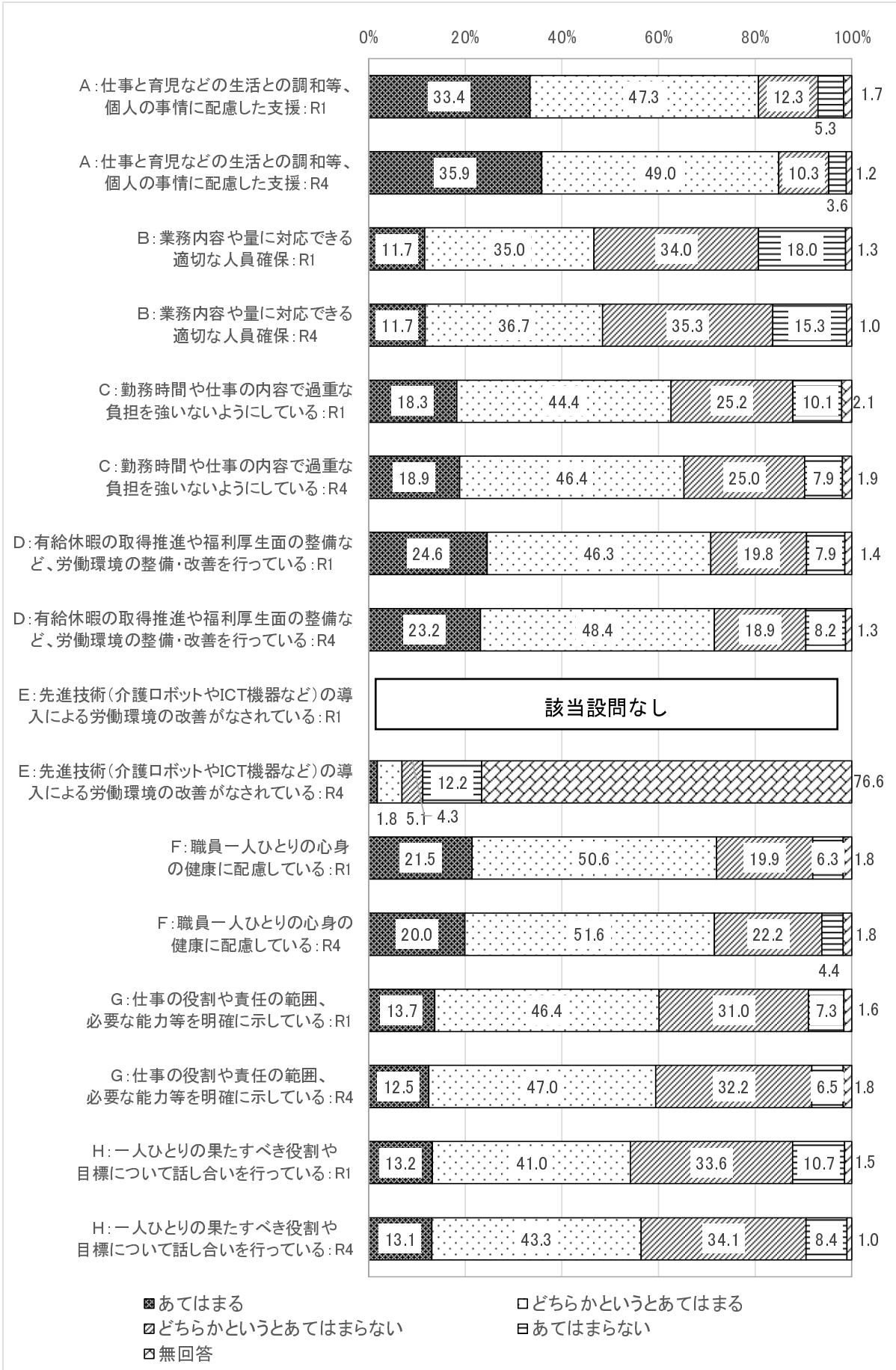
【全体結果の傾向】

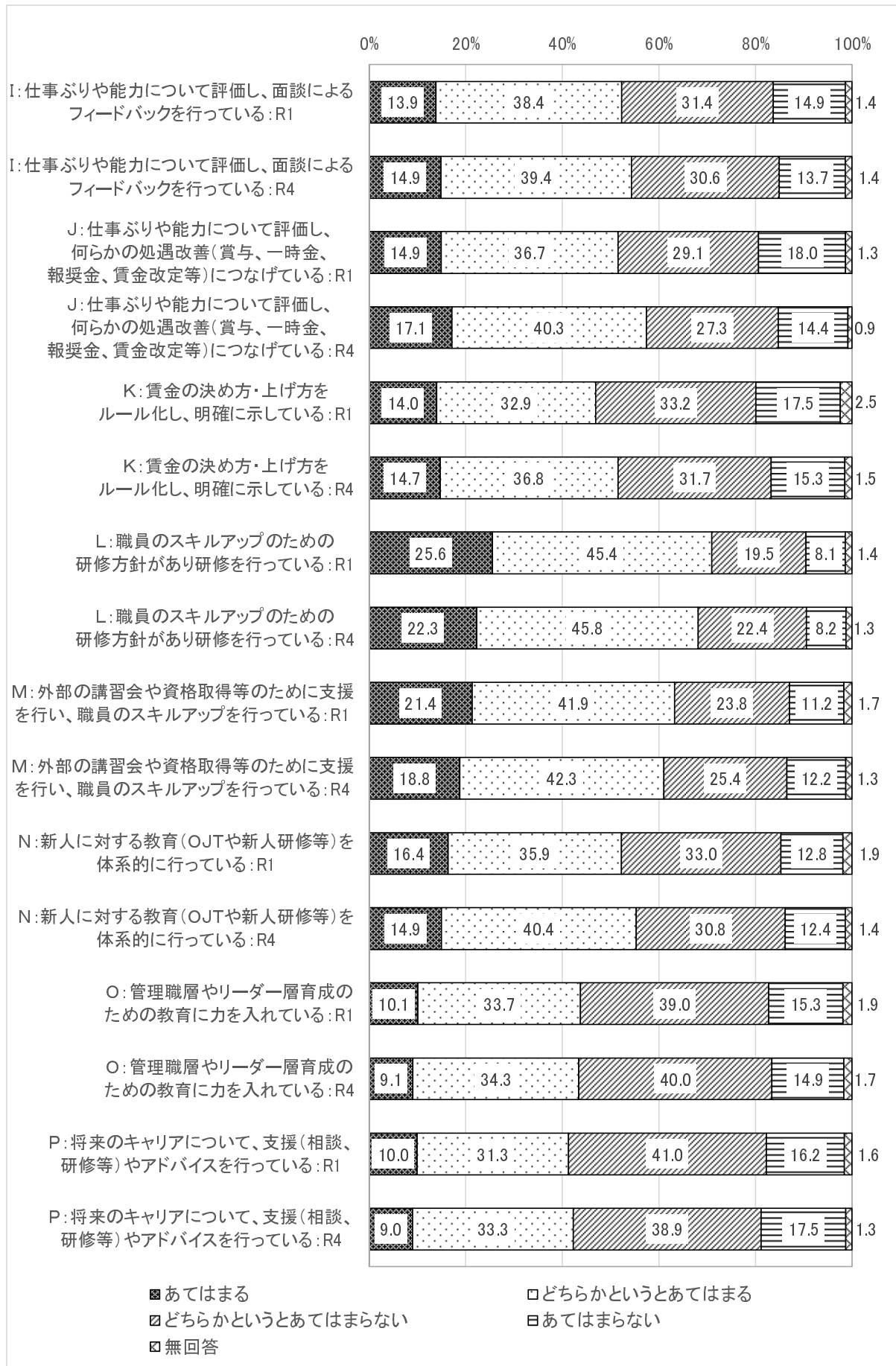
従業員側からみた事業所における各種雇用管理の状況について、「あてはまる」と「どちらか」というとあてはまる割合を合計した「あてはまる割合」、「どちらか」とあてはまらない」と「あてはまらない」割合を合計した「あてはまらない割合」でみると、『B：業務内容や量に対応できる適切な人員確保』『C：勤務時間や仕事の内容で過重な負担を強くないようにしている』『E：先進技術（介護ロボットやICT機器など）の導入による労働環境の改善がなされている』『G：仕事の役割や責任の範囲、必要な能力等を明確に示している』『H：一人ひとりの果たすべき役割や目標について話し合いを行っている』『I：仕事ぶりや能力について評価し、面談によるフィードバックを行っている』『J：仕事ぶりや能力について評価し、何らかの処遇改善（賞与、一時金、報奨金、賃金改定等）につなげている』『K：賃金の決め方・上げ方をルール化し、明確に示している』『L：職員のスキルアップのための研修方針があり研修を行っている』『M：外部の講習会や資格取得等のために支援を行い、職員のスキルアップを行っている』『N：新人に対する教育（OJTや新人研修等）を体系的に行っている』『O：管理職層やリーダー層育成のための教育に力を入れている』『P：将来のキャリアについて、支援（相談、研修等）やアドバイスを行っている』以外の項目で「あてはまる割合」が70%以上を占めており、特に『A：仕事と育児などの生活との調和等、個人の事情に配慮した支援』は80%以上を占めています。

一方、『E：先進技術（介護ロボットやICT機器など）の導入による労働環境の改善がなされている』は6.9%にとどまっています（無回答が76.6%を占めていることに注意）。

p159の事業所の結果と比較すると、「あてはまる割合」が70%以上を占める項目数は事業所の方が多く、雇用管理に対する評価は従事者の方が厳しい評価をしています。

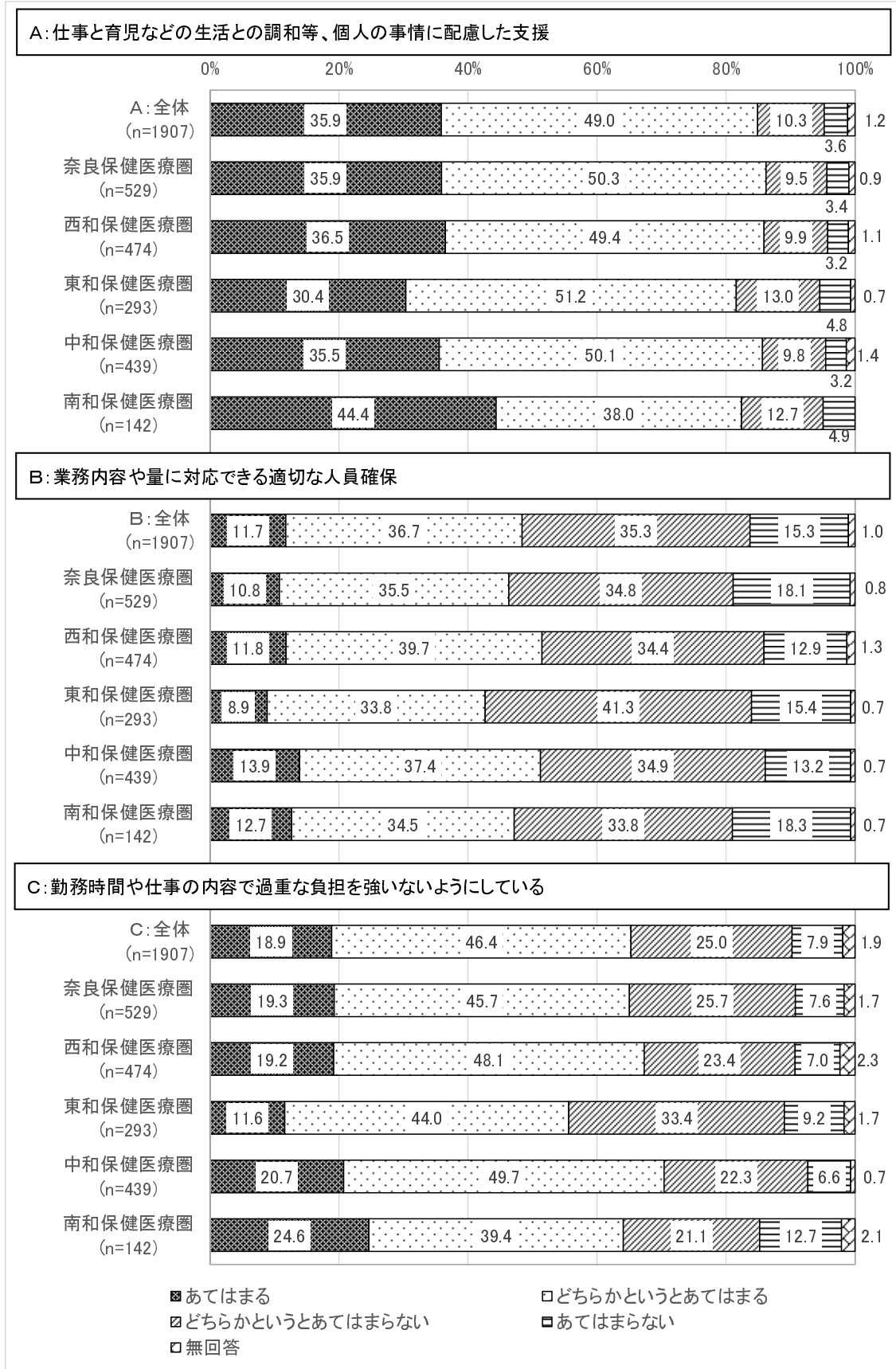
前回調査と比較すると、『A：仕事と育児などの生活との調和等、個人の事情に配慮した支援』が有意に高くなっています。





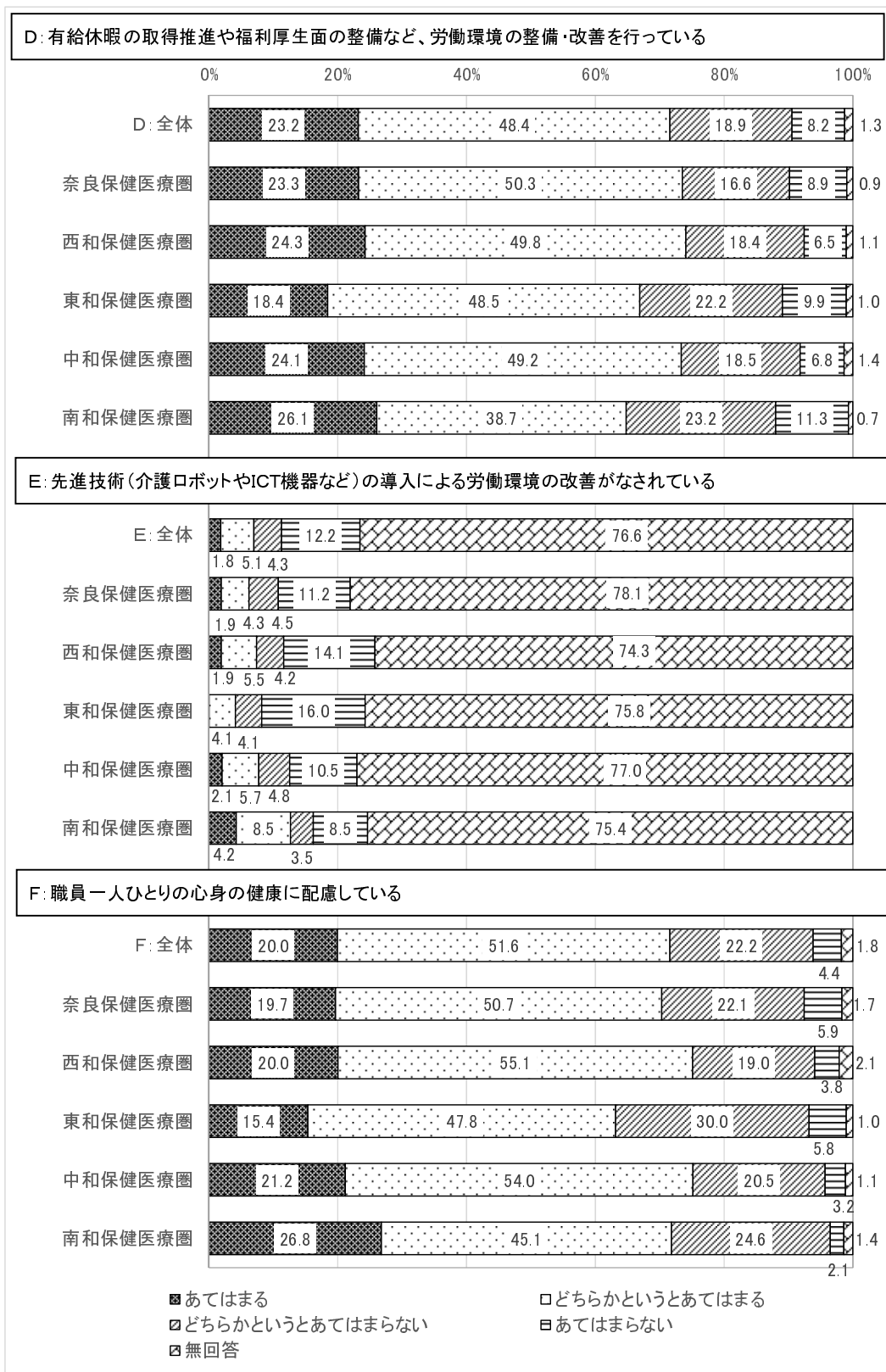
【圏域別の傾向】

圏域別にみると、『C：勤務時間や仕事の内容で過重な負担を強くないようにしている』の東和保健医療圏では「あてはまらない割合」が全体結果に比べて有意に高く、中和保健医療圏では「あてはまる割合」が有意に高くなっています。

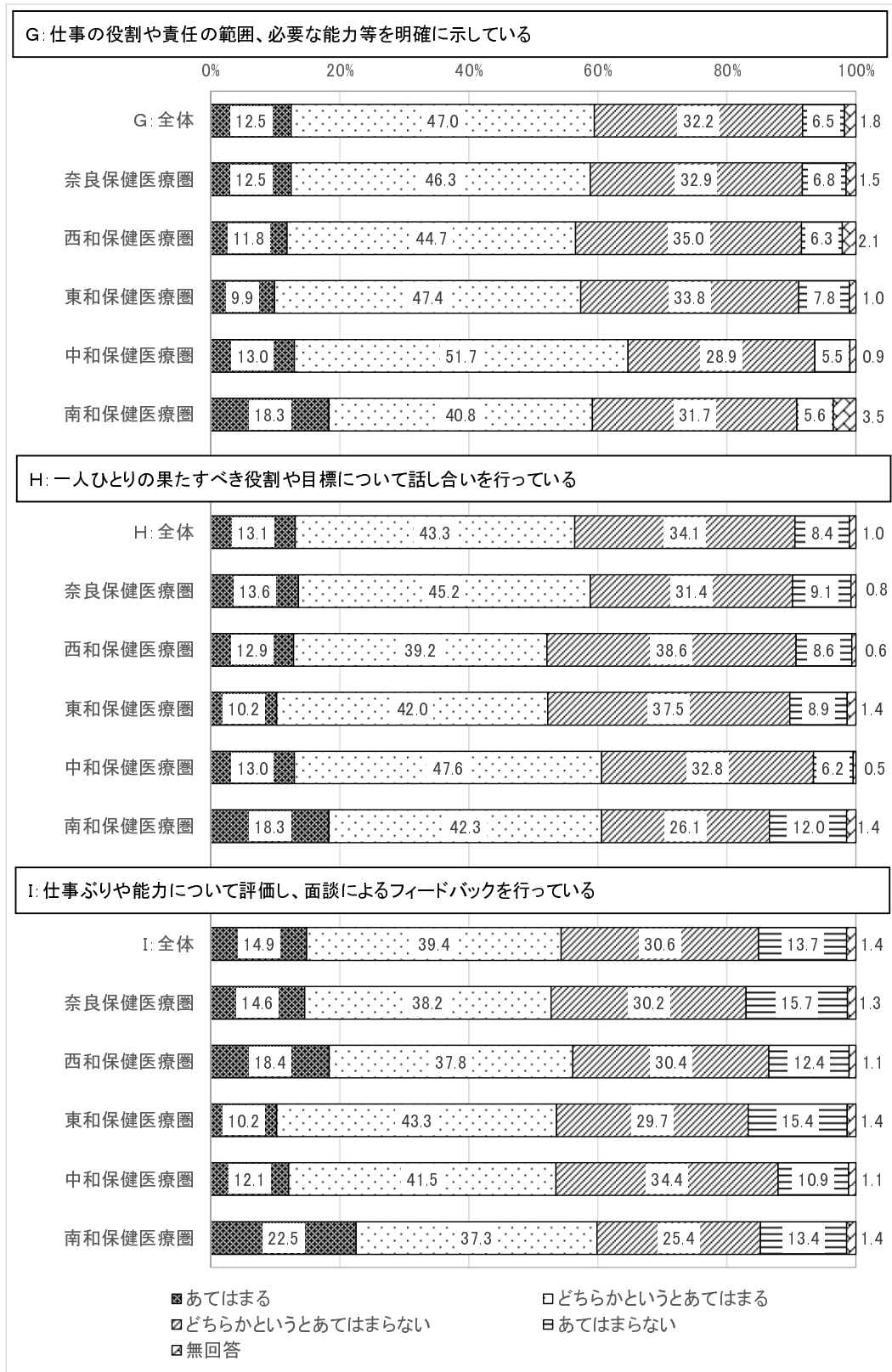


『D：有給休暇の取得推進や福利厚生面の整備など、労働環境の整備・改善を行っている』の南和保健医療圏では「あてはまる割合」が全体結果に比べて有意に低くなっています。

『F：職員一人ひとりの心身の健康に配慮している』の東和保健医療圏では「あてはまらない割合」が有意に高くなっています。

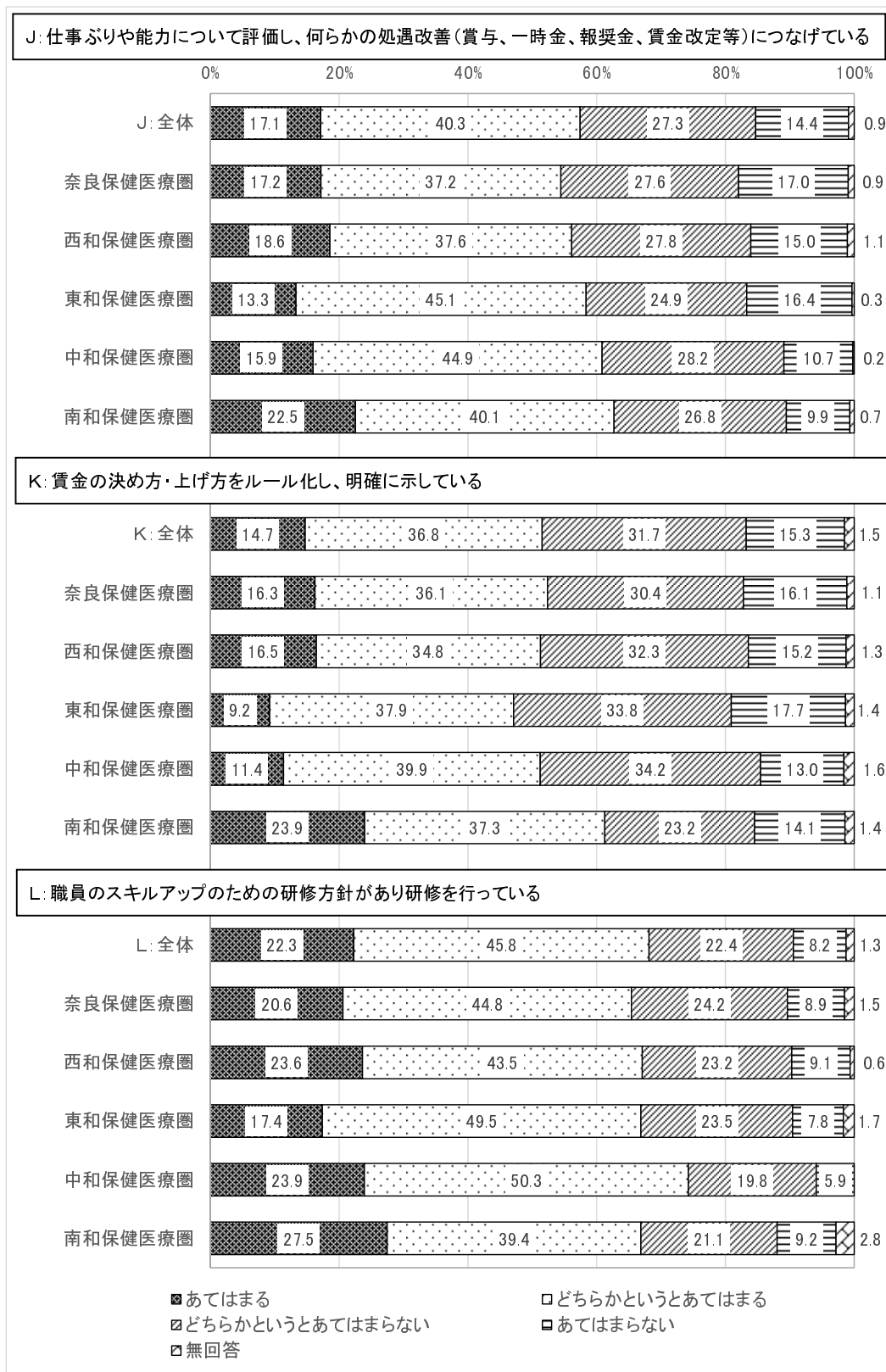


『G：仕事の役割や責任の範囲、必要な能力等を明確に示している』の中和保健医療圏では「あてはまる割合」が全体結果に比べて有意に高くなっています。

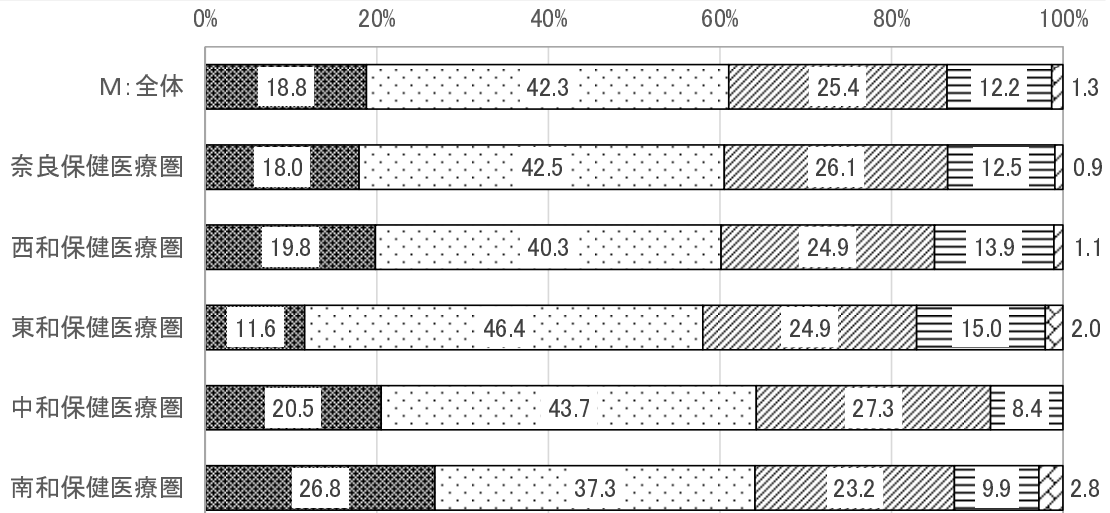


『K：賃金の決め方・上げ方をルール化し、明確に示している』の南和保健医療圏では「あてはまる割合」が全体結果に比べて有意に高くなっています。

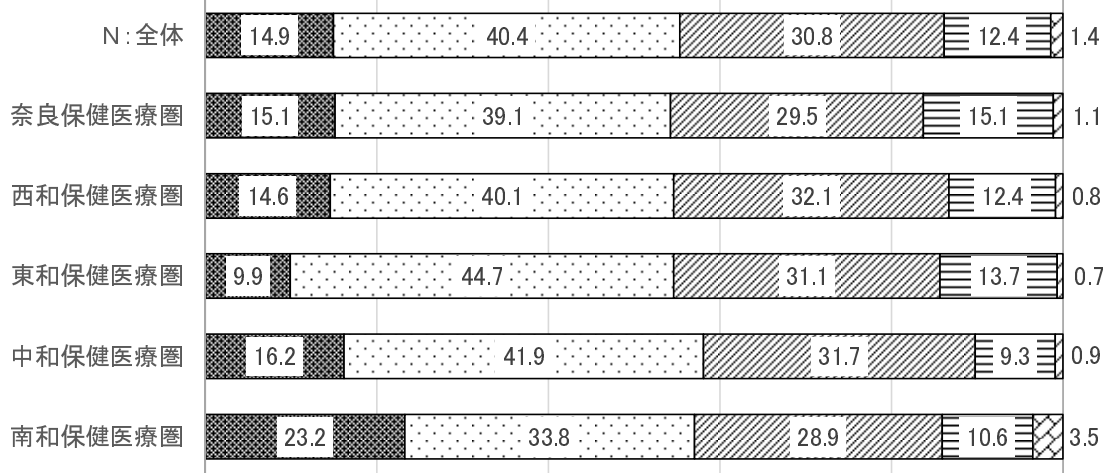
『L：職員のスキルアップのための研修方針があり研修を行っている』の中和保健医療圏では「あてはまる割合」が全体結果に比べて有意に高くなっています。



M: 外部の講習会や資格取得等のために支援を行い、職員のスキルアップを行っている



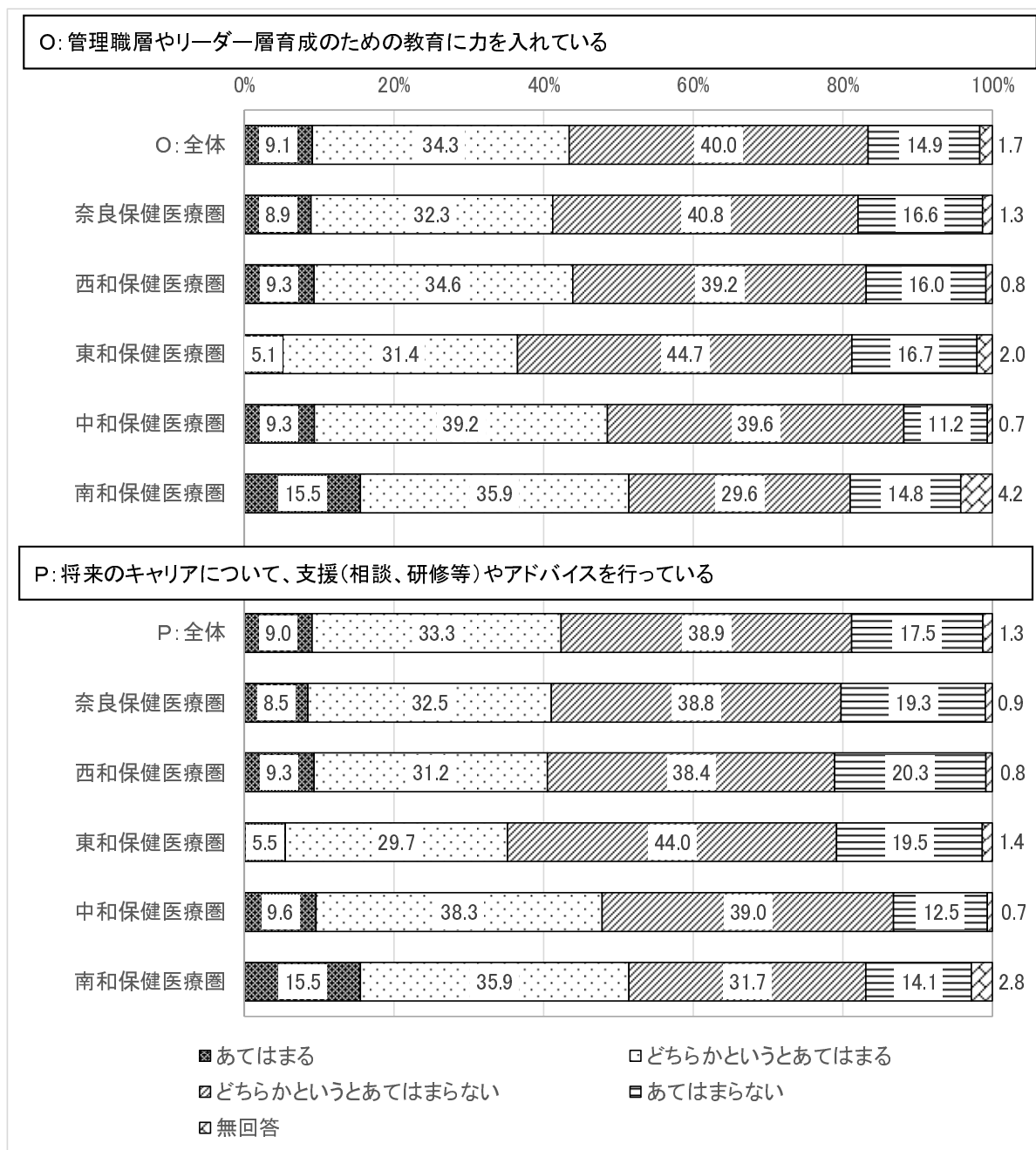
N: 新人に対する教育(OJTや新人研修等)を体系的に行っている



- あてはまる
- どちらかというにあてはまる
- ▨ どちらかというにあてはまらない
- あてはまらない
- 無回答

『O：管理職層やリーダー層育成のための教育に力を入れている』の東和保健医療圏では「あてはまらない割合」が全体結果に比べて有意に高く、南和保健医療圏では「あてはまらない割合」が有意に低くなっています。

『P：将来のキャリアについて、支援（相談、研修等）やアドバイスを行っている』の東和保健医療圏では「あてはまらない割合」が全体結果に比べて有意に高く、中和保健医療圏と南和保健医療圏では「あてはまる割合」が有意に高くなっています。



⑨ 仕事や職場に対する満足度

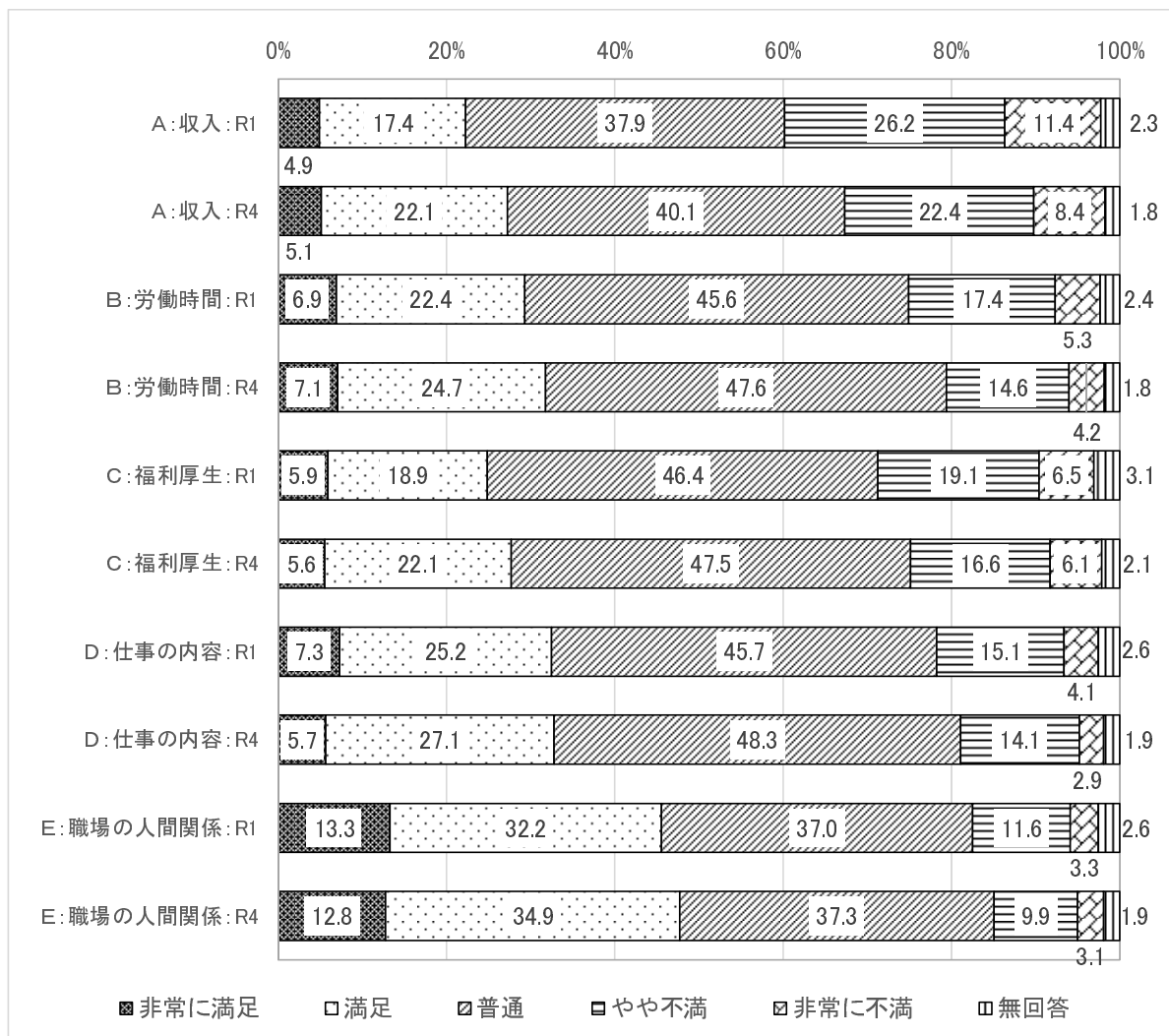
あなたは、現在の仕事や職場に満足していますか。

(以下のA～Eそれぞれについて、○は1～5のいずれか1つ) 【F-問14】

【全体結果の傾向】

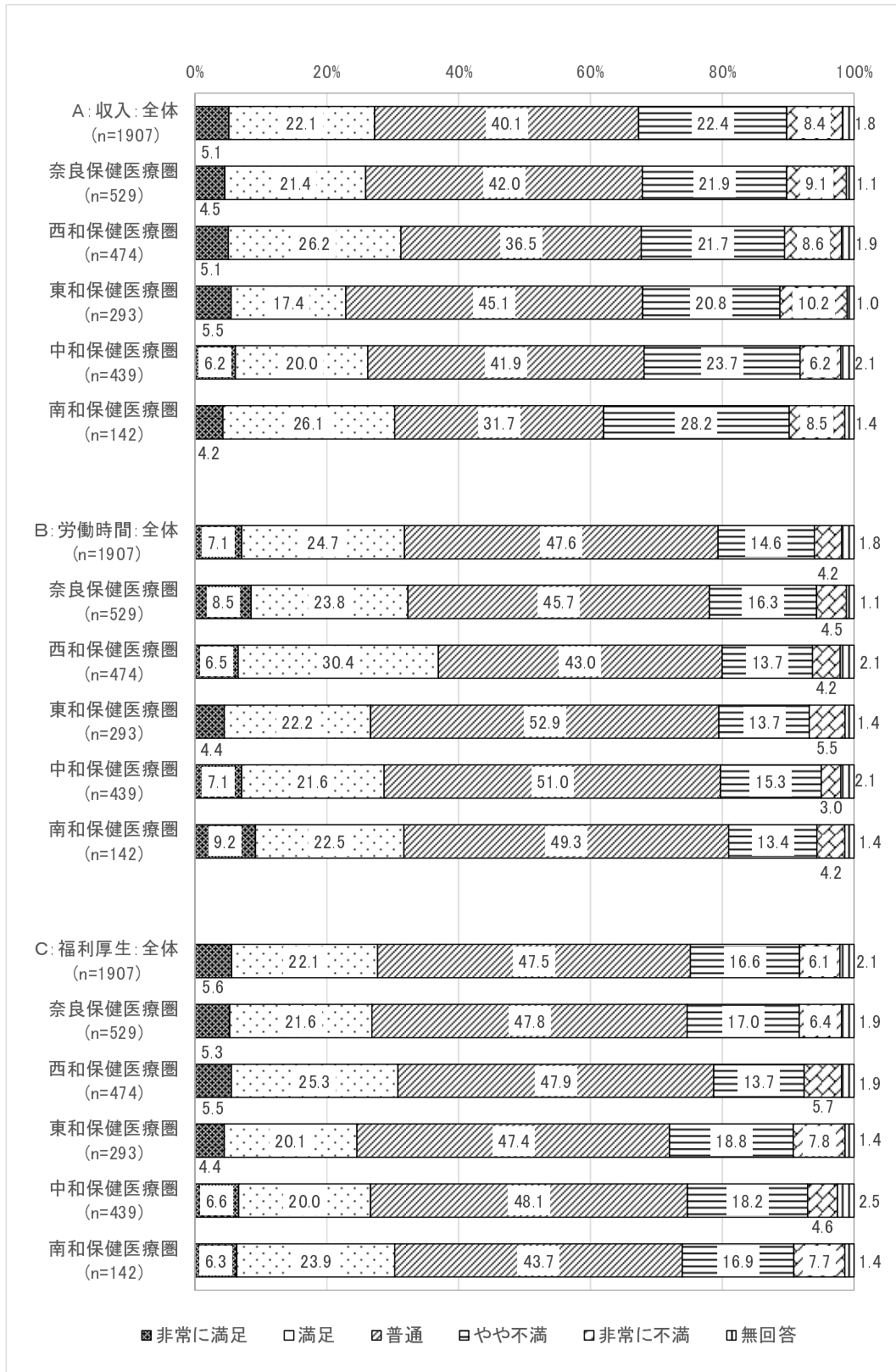
従事者の仕事や職場に対する満足度について、「非常に満足」と「満足」の割合を合計した「満足度」、「やや不満」と「非常に不満」の割合を合計した「不満度」でみると、「不満度」よりも「満足度」の方が高いのは、『B：労働時間』(31.8%)、『C：福利厚生』(27.7%)、『D：仕事の内容』(32.8%)、『E：職場の人間関係』(47.7%)、一方、「満足度」よりも「不満度」の方が高いのは『A：収入』(30.8%)となっています。

前回調査と比較すると、『A：収入』『C：福利厚生』は「満足度」が有意に高くなっています。



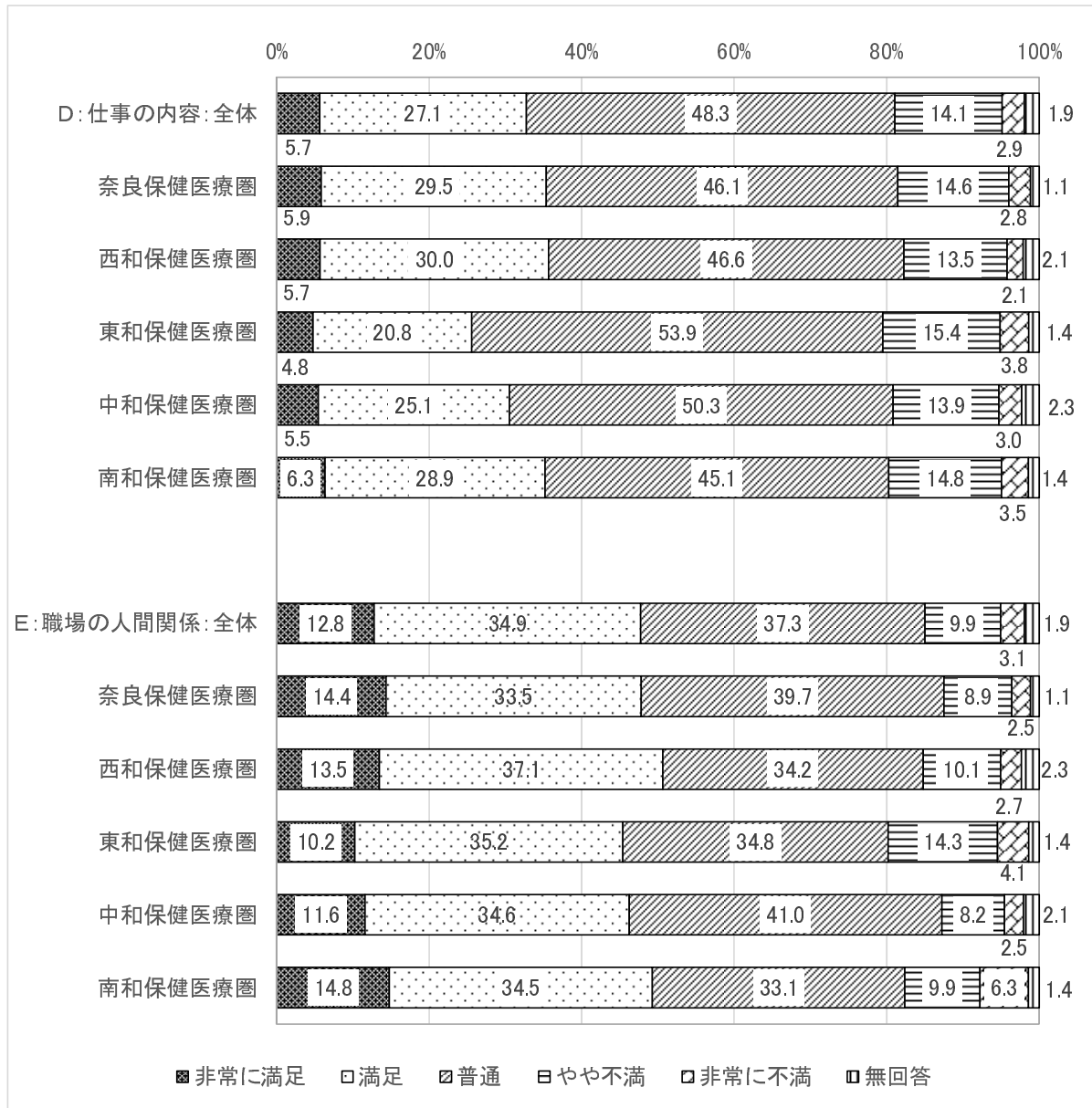
【圏域別の傾向】

圏域別にみると、『B：労働時間』の西和保健医療圏では「満足度」が36.9%で全体結果に比べて有意に高くなっています。



『D：仕事の内容』の東和保健医療圏では「満足度」が25.6%と全体結果に比べて有意に低くなっています。

『E：職場の人間関係』の東和保健医療圏では「不満度」が18.4%と全体結果に比べて有意に高くなっています。



⑩ 業務上の悩みや不安

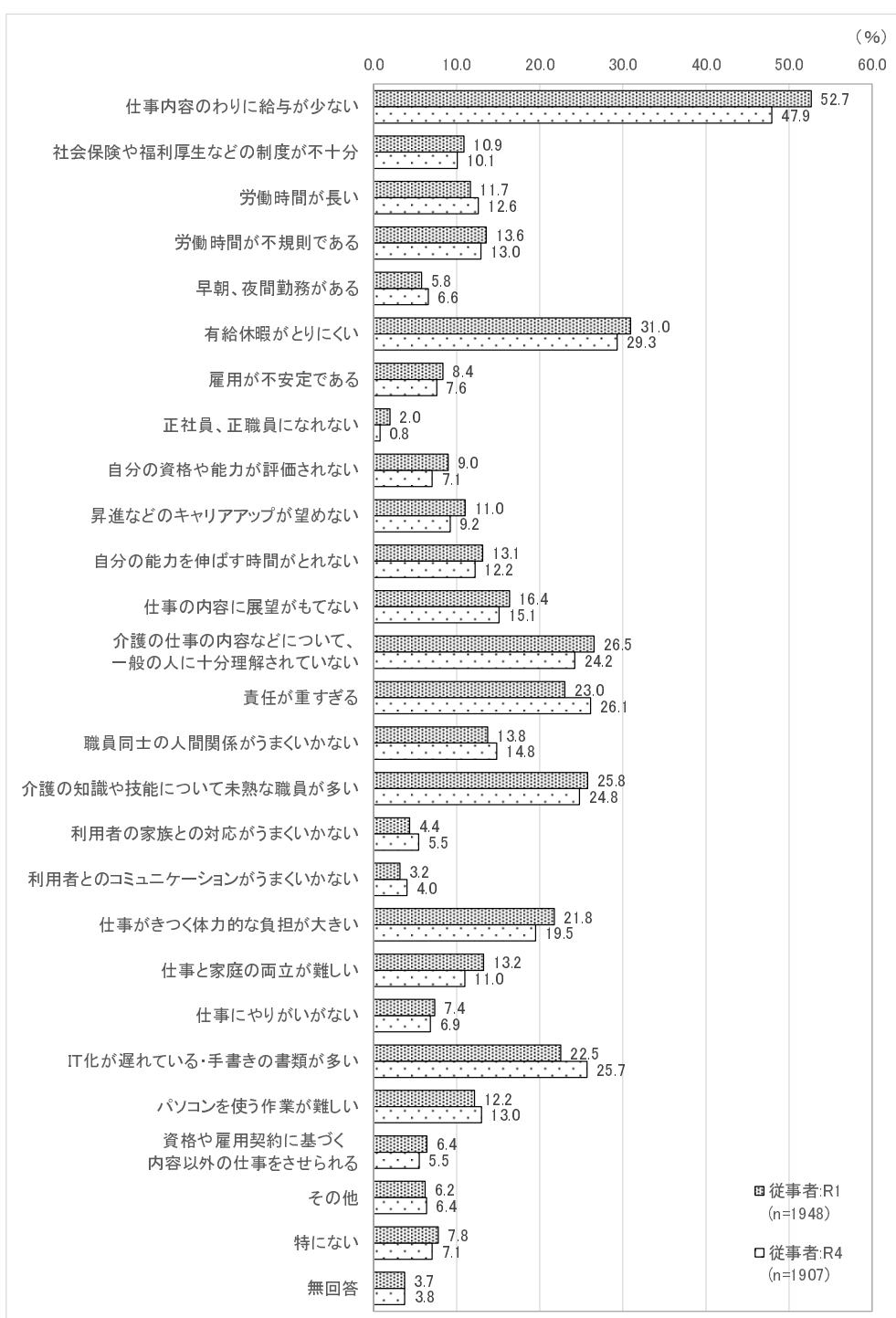
あなたは、介護の仕事をするうえで悩みや不安、負担感などを感じますか。

(○は主なもの5つまで) 【F-問16】

【全体結果の傾向】

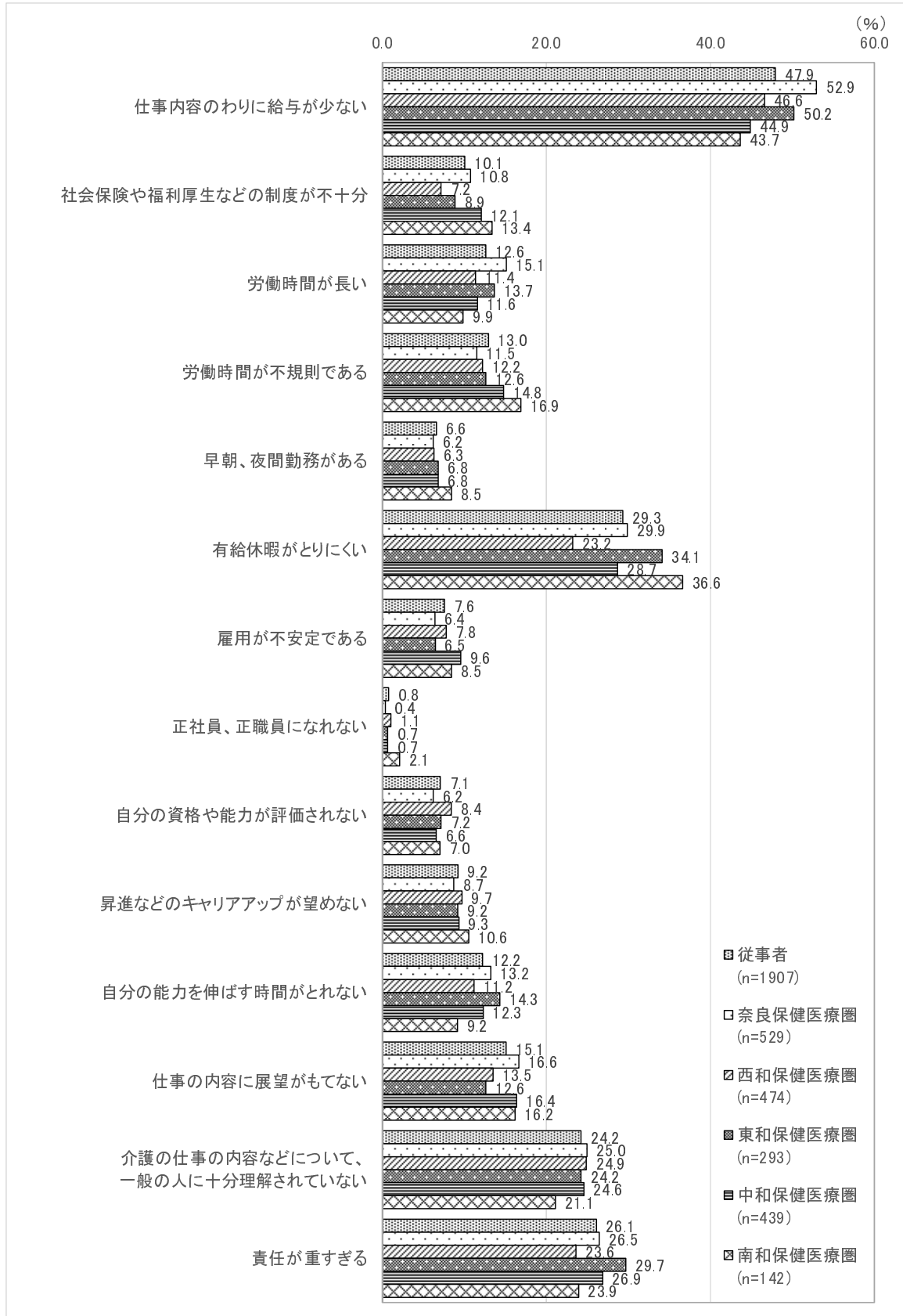
従事者の介護の仕事をするうえで悩みや不安、負担感の上位3位は、「仕事内容のわりに給与が少ない」(47.9%)、「有給休暇がとりにくい」(29.3%)、「責任が重すぎる」(26.1%)となっています。

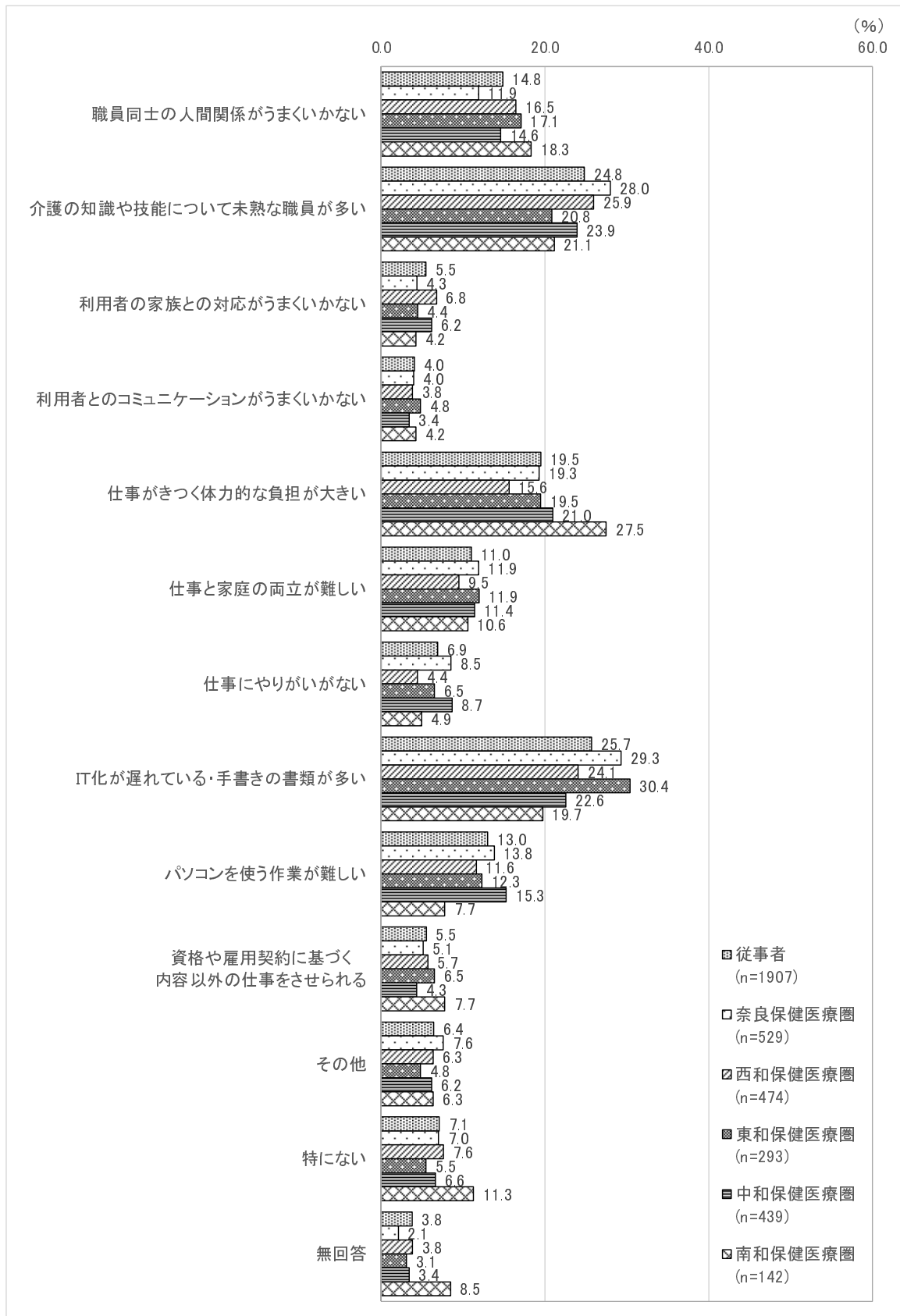
前回調査と比較すると、「仕事内容のわりに給与が少ない」「正社員、正職員になれない」「自分の資格や能力が評価されない」は有意に低くなっている反面、「責任が重すぎる」は有意に高くなっています。



【圏域別の傾向】

圏域別にみると、奈良保健医療圏では「仕事内容のわりに給与が少ない」(52.9%)が、南和保健医療圏では「仕事がつつく体力的な負担が大きい」(27.5%)が全体結果に比べて有意に高く、西和保健医療圏では「有給休暇がとりにくい」(23.2%)が有意に低くなっています。





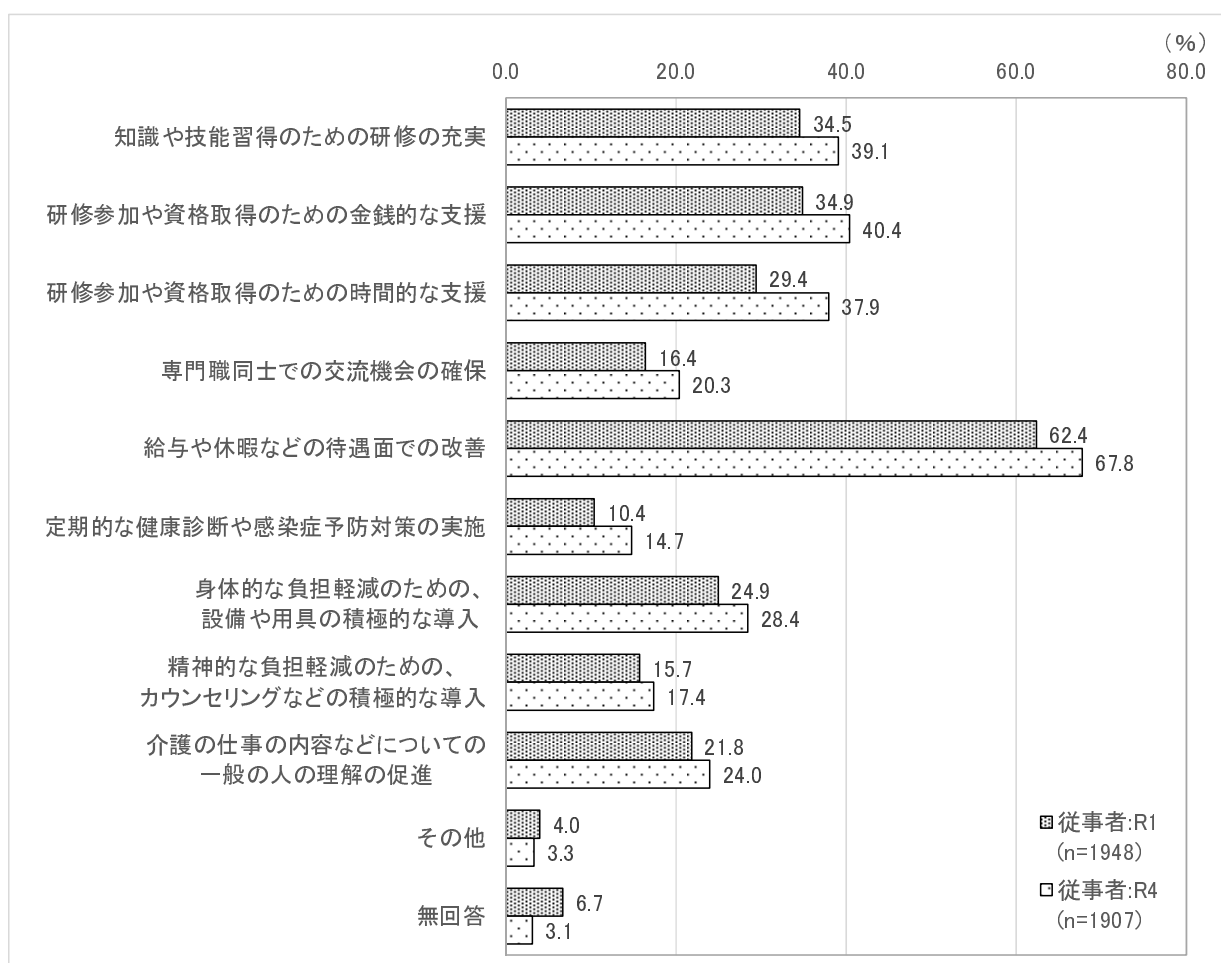
⑪ 介護サービス従事者を取り巻く環境改善に必要なこと

介護サービス従事者を取りまく環境をよりよくするために、あなたが必要だと思うことは何ですか。職場の状況に関わらず、業界全体を通してお考えください。(〇はいくつでも) 【F-問20】

【全体結果の傾向】

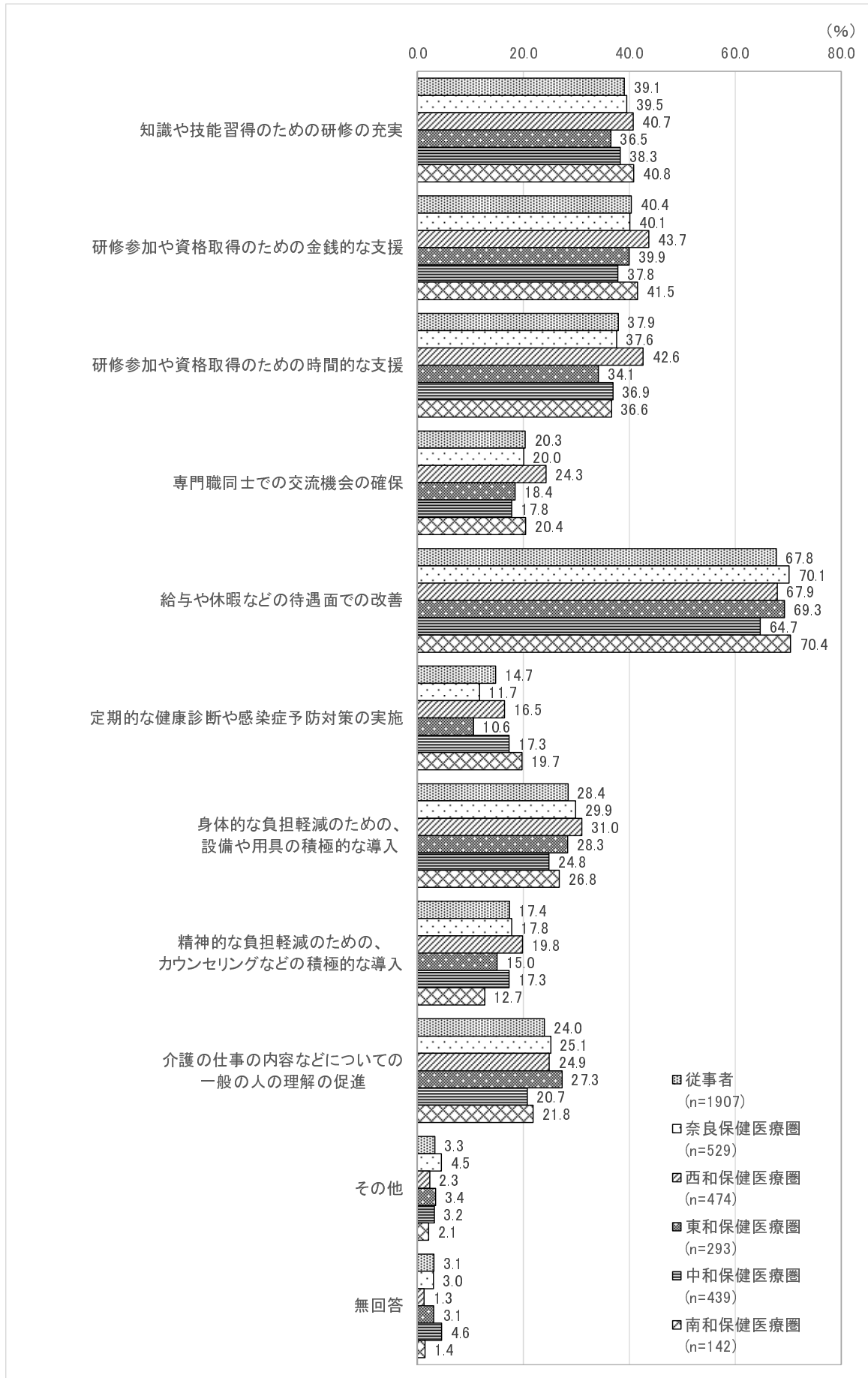
介護サービス従事者を取りまく環境をよくするために必要なことの上位3位は「給与や休暇などの待遇面での改善」(67.8%)、「研修参加や資格取得のための金銭的な支援」(40.4%)、「知識や技能習得のための研修の充実」(39.1%)となっています。

前回調査と比較すると、「精神的な負担軽減のための、カウンセリングなどの積極的な導入」と「介護の仕事の内容などについての一般の人の理解の促進」「その他」以外のすべての項目で有意に高くなっており、これらの環境改善の必要性が高まっていると言えます。



【圏域別の傾向】

圏域別にみると、いずれの圏域でも全体結果と比較して有意な差は見られません。



(2) 業務の効率化と事業者支援

① 月間収支状況

貴事業所の月間の収支状況はいかがですか。(〇は1つ) 【E-問1】

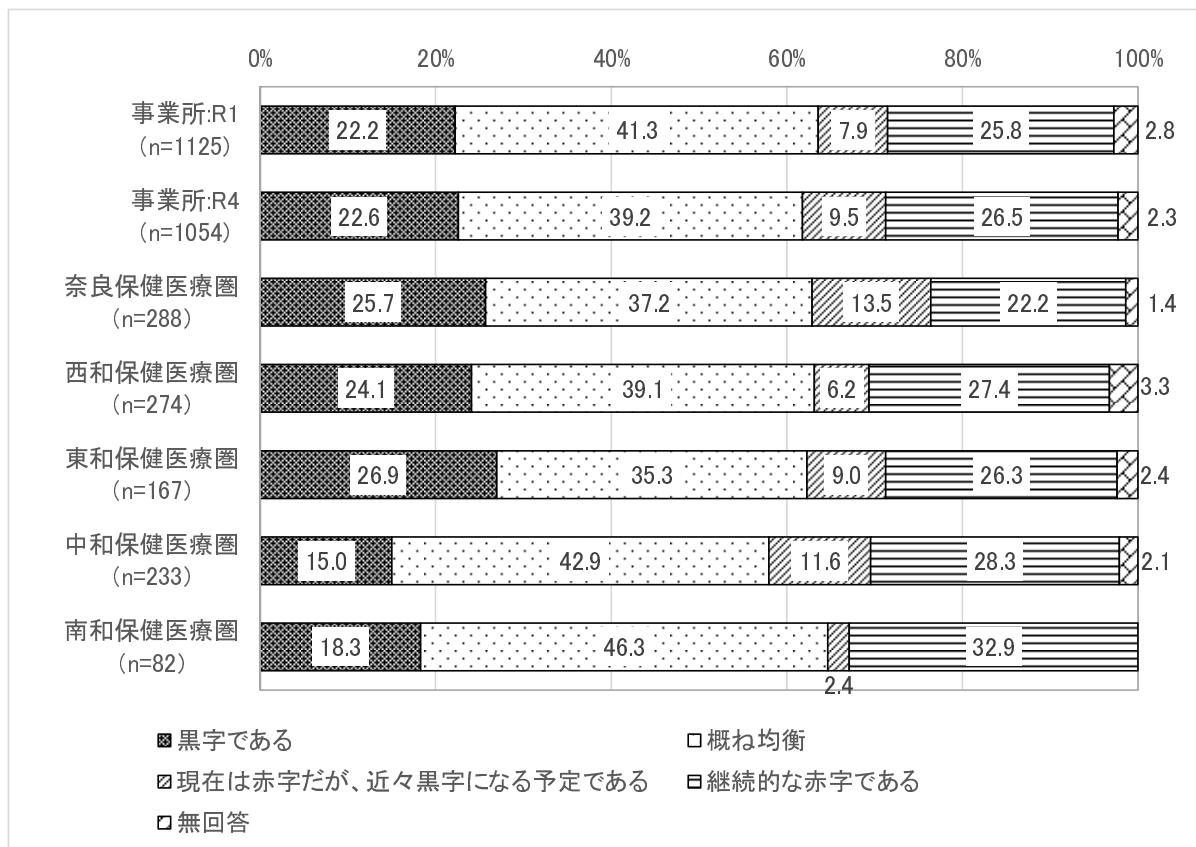
【全体結果の傾向】

事業所における月間の収支状況は、「黒字である」が22.6%、「概ね均衡」が39.2%、「現在は赤字だが、近々黒字になる予定である」が9.5%、「継続的な赤字である」が26.5%となっています。

前回調査と比較しても有意な差は見られません。

【圏域別の傾向】

圏域別にみると、中和保健医療圏では「黒字である」が全体結果と比較して有意に低くなっています。



② 開設前と比較した収支状況

貴事業所の収支状況は、開設前の計画と比較していかがですか。(○は1つ) 【E-問2】

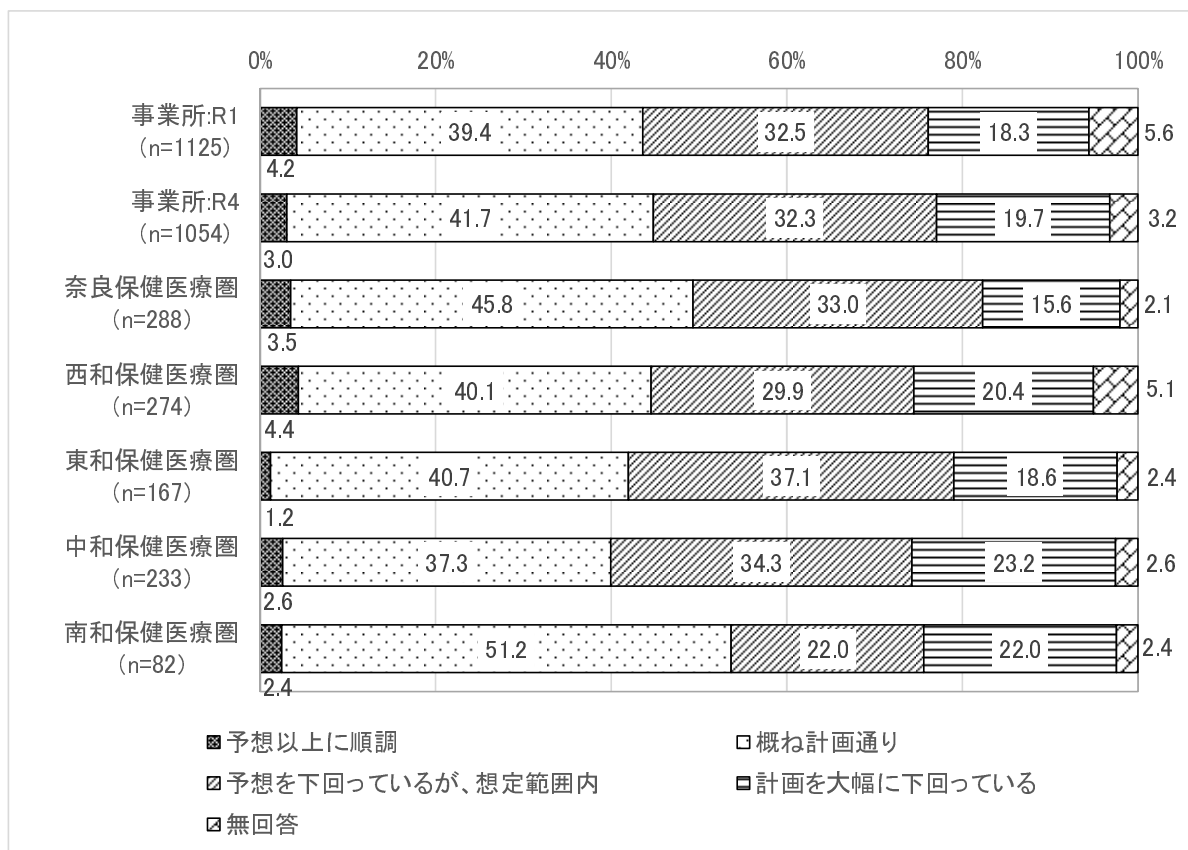
【全体結果の傾向】

開設前の計画と比較した収支状況は、「予想以上に順調」が3.0%、「概ね計画通り」が41.7%と、収支状況が良好な事業所が44.7%に対し、「予想を下回っているが、想定範囲内」が32.3%、「計画を大幅に下回っている」が19.7%と、収支状況が悪化している事業所が52.0%で、悪化している事業所が良好な事業所を上回っています。

前回調査と比較しても有意な差は見られません。

【圏域別の傾向】

圏域別にみると、いずれの圏域でも全体結果と比較して有意な差は見られません。



③ 収支状況が計画よりも下回っている理由

問2 (p191) で選択肢「3 下回っているが想定範囲内」または「4 計画を大幅に下回っている」とお答えの事業所にお聞きします。

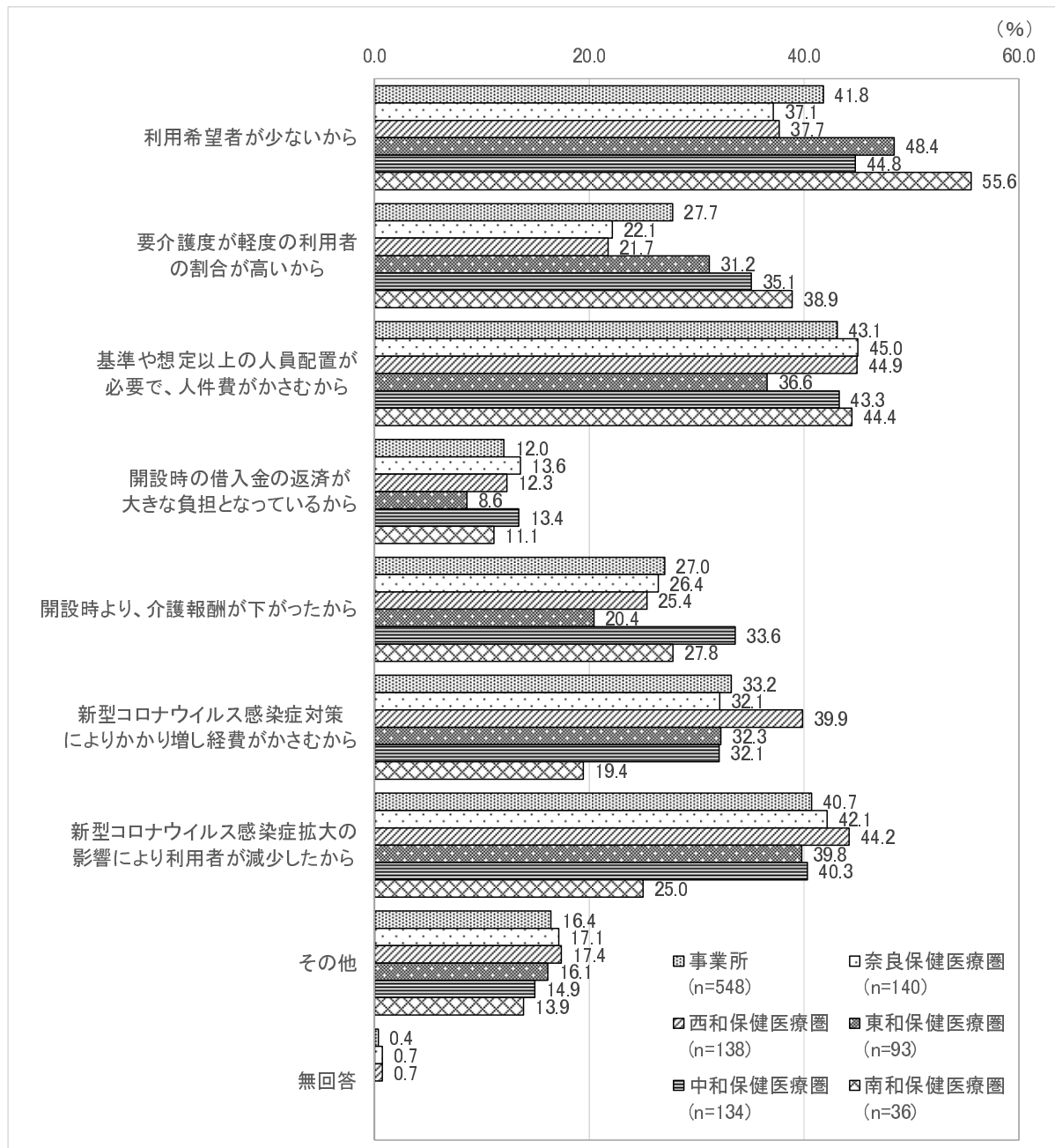
貴事業所の収支状況が計画を下回っている主な理由として考えられることはどのようなことですか。(〇はいくつでも) 【E-問3】

【全体結果の傾向】

収支状況が計画よりも下回っていると回答した事業所に対して、その理由を尋ねたところ、下回っている理由の上位3位は、「基準や想定以上の人員配置が必要で、人件費がかさむから」(43.1%)、「利用希望者が少ないから」(41.8%)、「新型コロナウイルス感染症拡大の影響により利用者が減少したから」(40.7%)となっています。

【圏域別の傾向】

圏域別に見ると、いずれの圏域でも全体結果に比べて有意な差は見られません。



④ 介護現場での先進技術の導入に対する考え

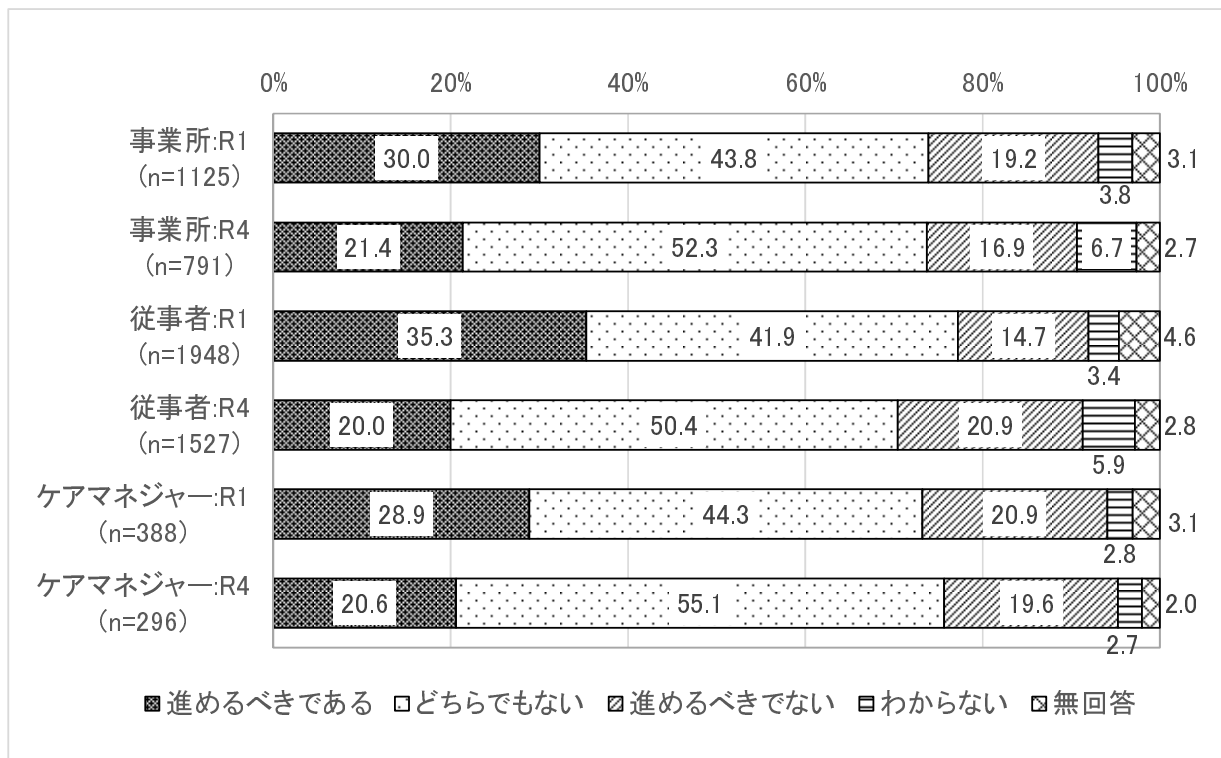
あなたは、介護の現場で、先進技術を用いた機械（介護ロボット、ICT機器）等の導入が進めることについて、どのようにお考えですか。（○は1つ） 【E-問 36、F-問 28、G-問 21】

【全体結果の傾向】

介護の現場で、先進技術を用いた機械（介護ロボット、ICT機器）等の導入が勧めることについての考えは、事業所、従事者、ケアマネジャーともに「どちらでもない」が過半数を占めている中で、「進めるべきである」は事業所で21.4%、従事者で20.0%、ケアマネジャーで20.6%、「進めるべきでない」は事業所で16.9%、従事者で20.9%、ケアマネジャーで19.6%と拮抗しています。

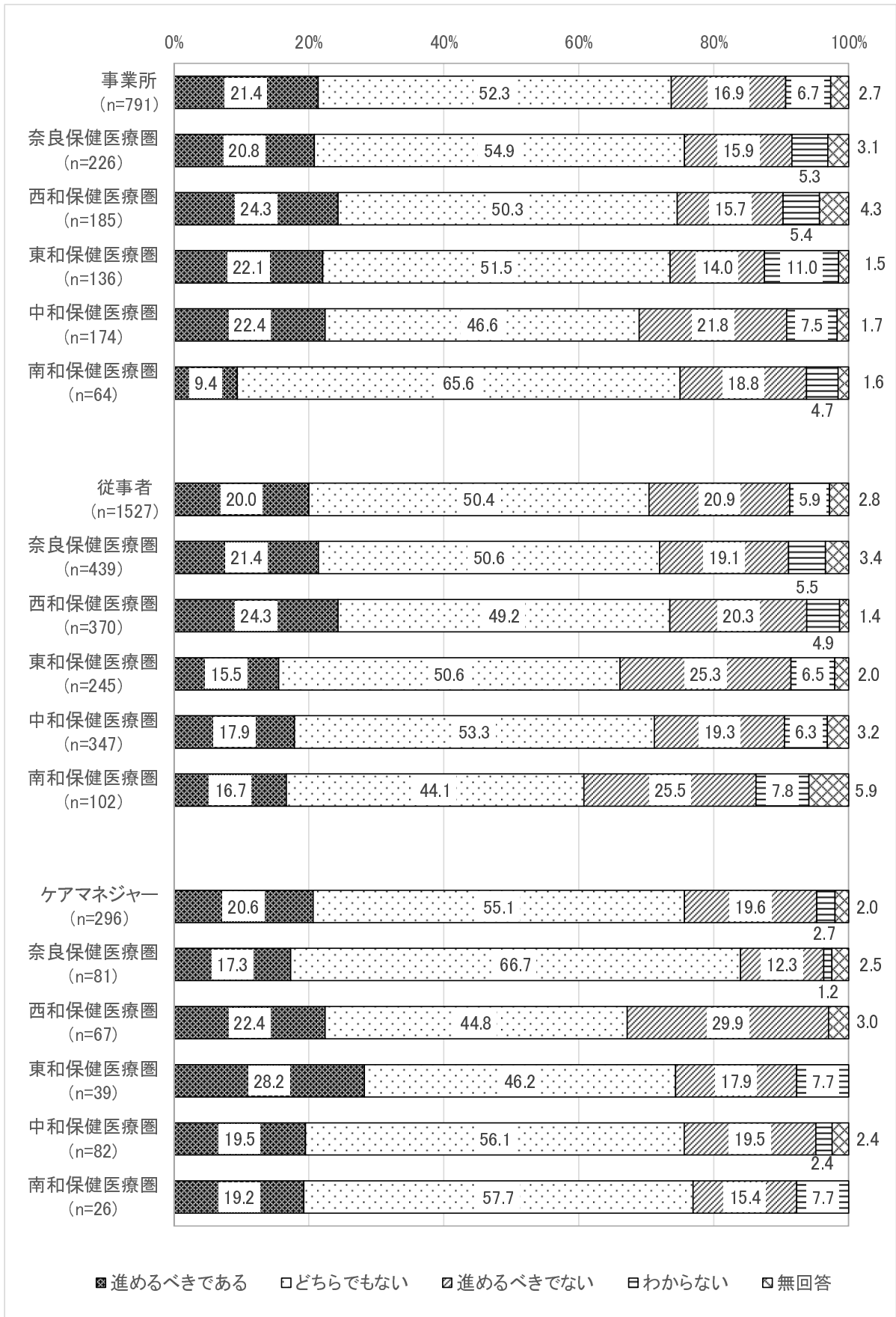
事業所と従事者の結果を比較すると、「進めるべきでない」は事業所よりも従事者で有意に高くなっています。

前回調査と比較すると、事業所、従事者、ケアマネジャーともに「どちらでもない」が有意に高く、従事者は「進めるべきでない」や「わからない」も有意に高くなっています。



【圏域別の傾向】

事業所を圏域別にみると、南和保健医療圏は「進めるべきである」(9.4%)が全体結果と比較して有意に低くなっています。



⑤ 先進技術の導入を進めるべきではない理由

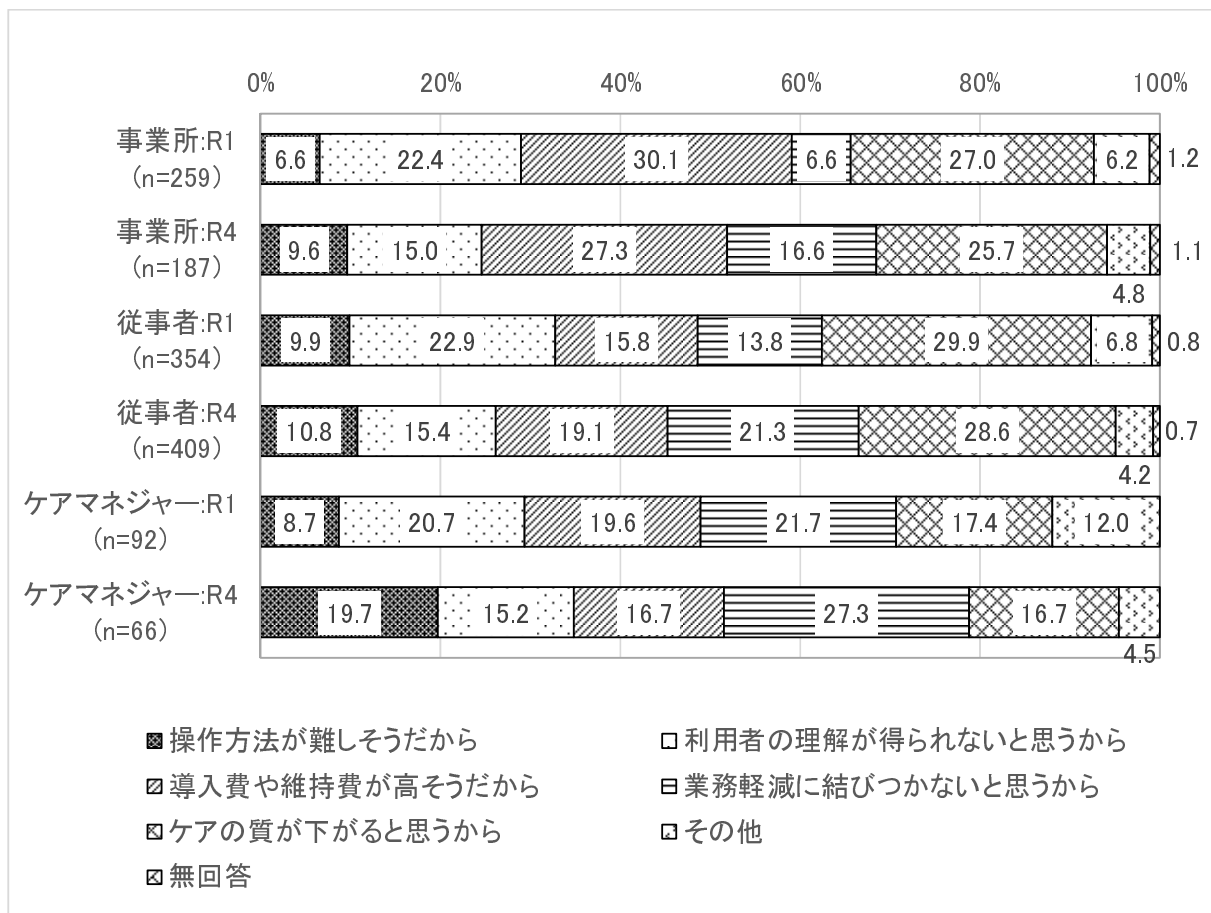
問 36 (p193) で選択肢「3 進めるべきでない」または「4 わからない」とお答えの事業所にお聞きします。なぜ、そのようにお考えですか。(○は主なもの1つ)

【E-問 37、F-問 29、G-問 22】

【全体結果の傾向】

先進技術の導入を「進めるべきではない」または「わからない」と回答した事業所、従事者、ケアマネジャーに対して、その理由を尋ねたところ、理由の上位3位は、事業所では「導入費や維持費が高そうだから」(27.3%)、「ケアの質が下がると思うから」(25.7%)、「業務軽減に結びつかないと思うから」(16.6%)、従事者では「ケアの質が下がると思うから」(28.6%)、「業務軽減に結びつかないと思うから」(21.3%)、「導入費や維持費が高そうだから」(19.1%)、ケアマネジャーでは「業務軽減に結びつかないと思うから」(27.3%)、「操作方法が難しそうだから」(19.7%)、「導入費や維持費が高そうだから」「ケアの質が下がると思うから」(各16.7%)となっています。

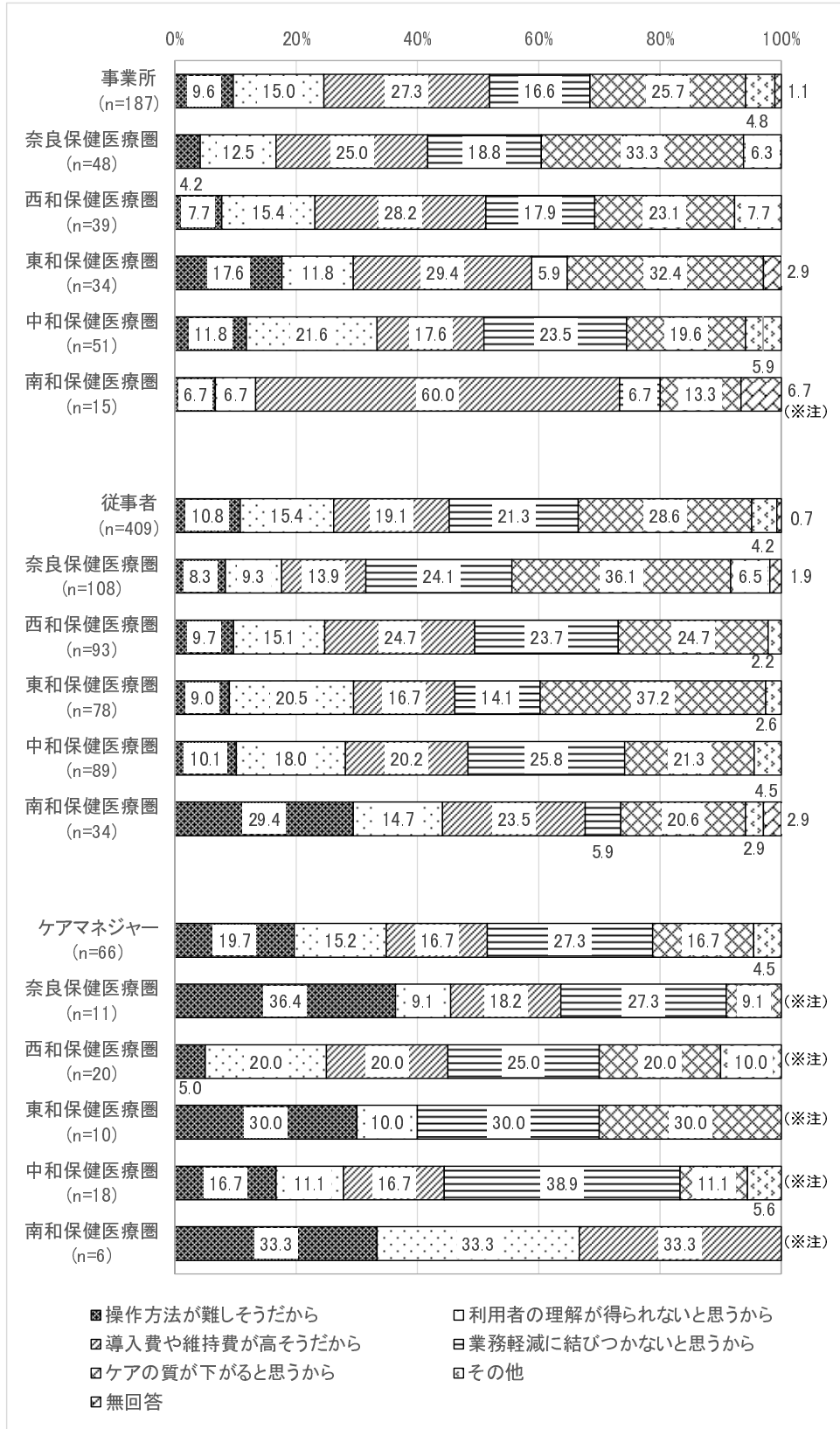
前回調査と比較すると、事業所と従事者では「業務軽減に結びつかないと思うから」が有意に高く、従事者では「利用者の理解が得られないと思うから」は有意に低くなっています。



【圏域別の傾向】

事業所を圏域別にみると、南和保健医療圏では「導入費や維持費が高そうだから」が全体結果と比較して有意に高くなっています。

従事者を圏域別にみると、南和保健医療圏では「操作方法が難しそうだから」が全体結果と比較して有意に高くなっています。



6. 介護保険制度の適正な運営に関する調査結果

(1) 介護認定の適正化

① 認定調査員業務の従事年数

あなたは、令和4年9月1日現在で、認定調査員の仕事（業務）を始めてから何年になりますか。
 (○は1つ) 【K-問1】

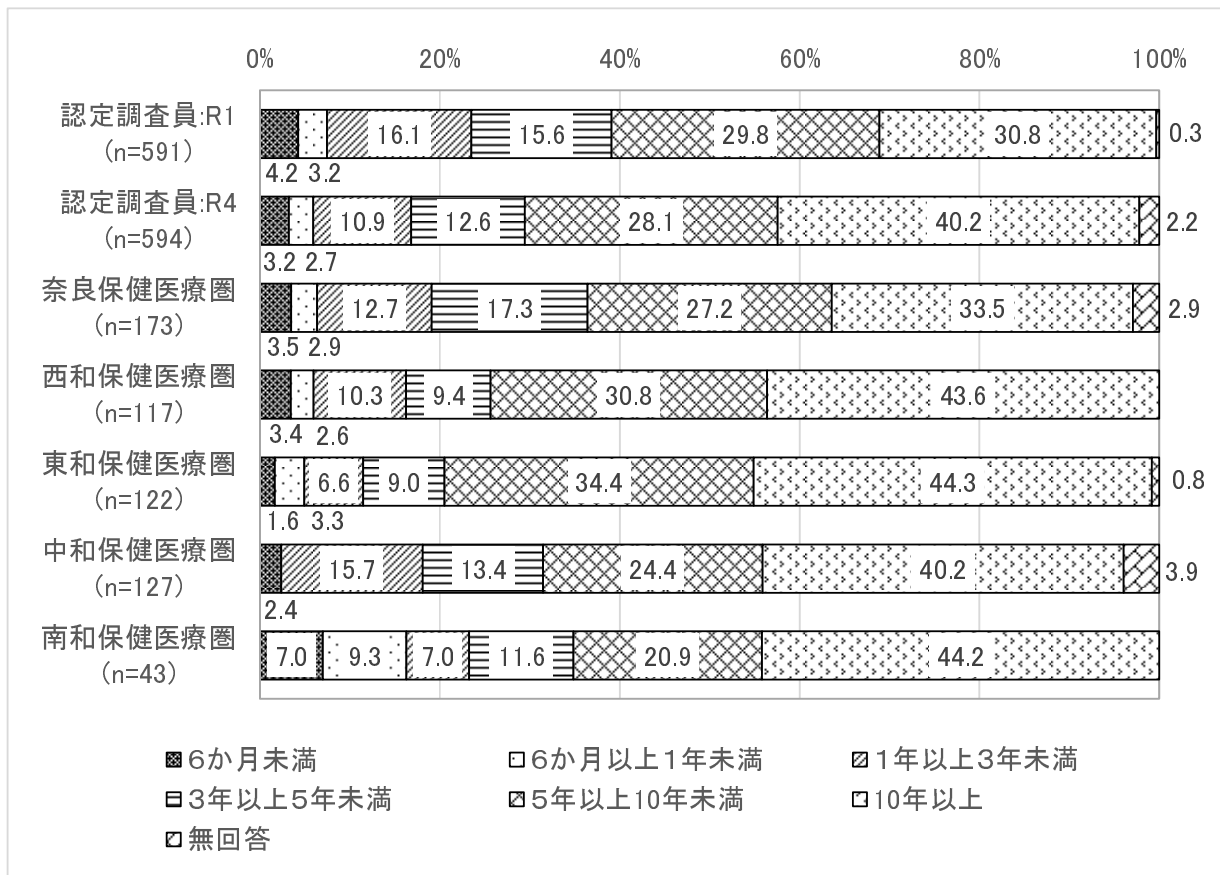
【全体結果の傾向】

認定調査員の仕事を始めてからの期間は、「10年以上」が40.2%、「5年以上10年未満」が28.1%と、5年以上従事している調査員が約70%を占めています。

前回調査と比較すると、「1年以上3年未満」が有意に低く、「10年以上」は有意に高くなっているなど、従事年数は長期化する傾向が見られます。

【圏域別の傾向】

圏域別にみると、いずれの圏域でも全体結果と比較して有意な差は見られません。



② 認定調査において判断に迷う項目

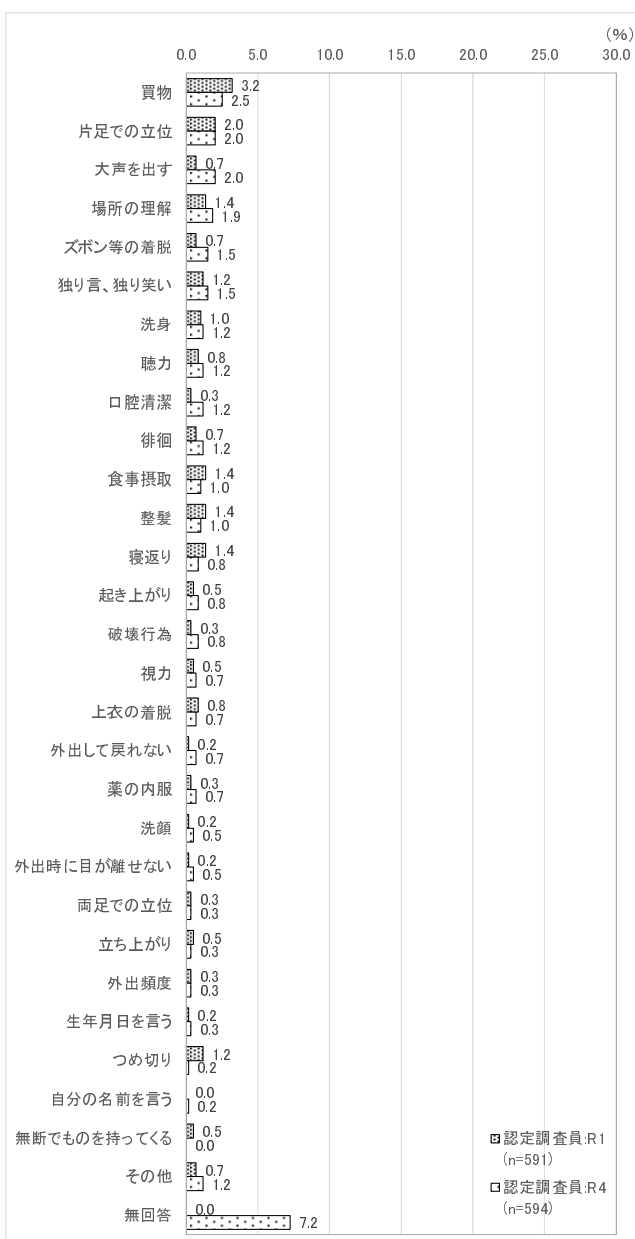
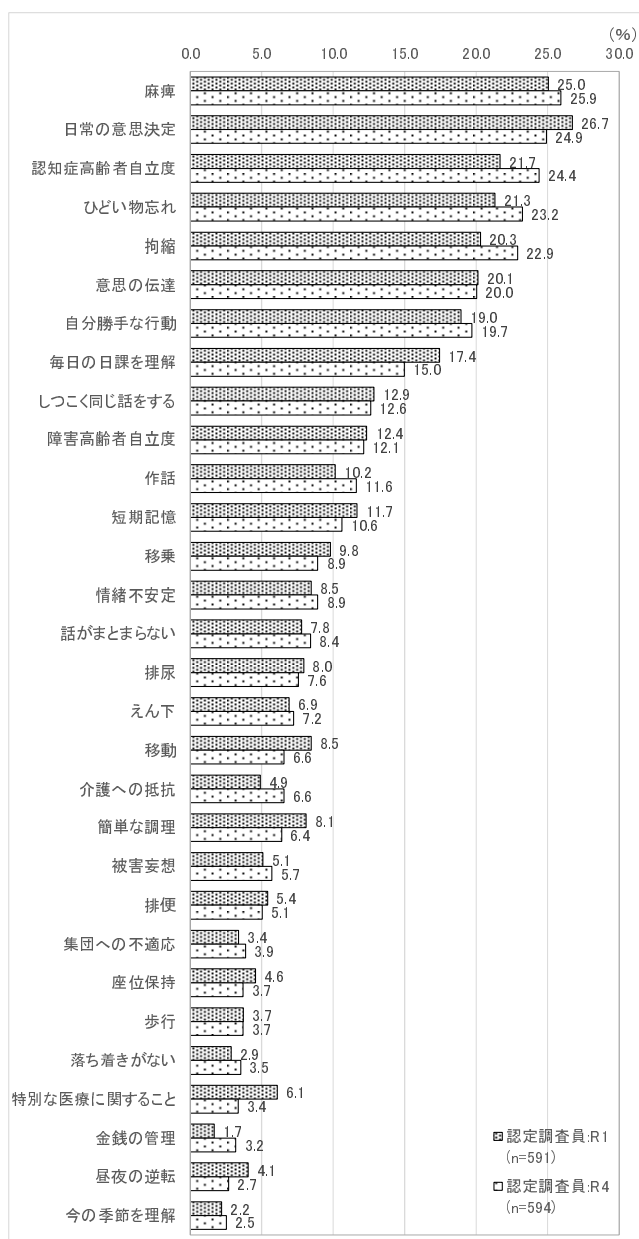
認定調査を行ううえで、よく判断に迷うのはどの項目ですか。(○は主なもの5つまで)

【K-問9】

【全体結果の傾向】

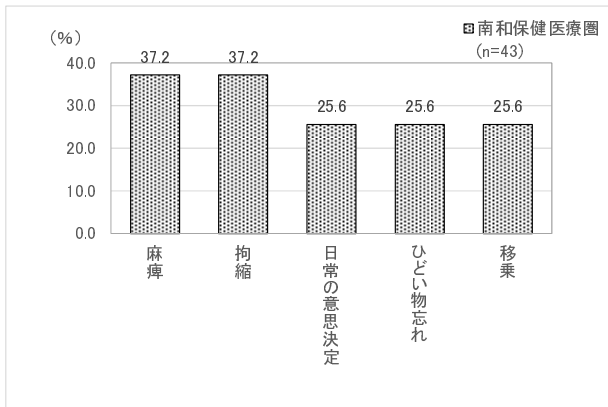
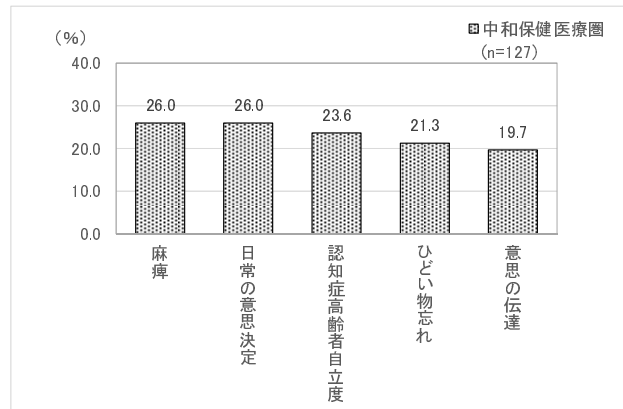
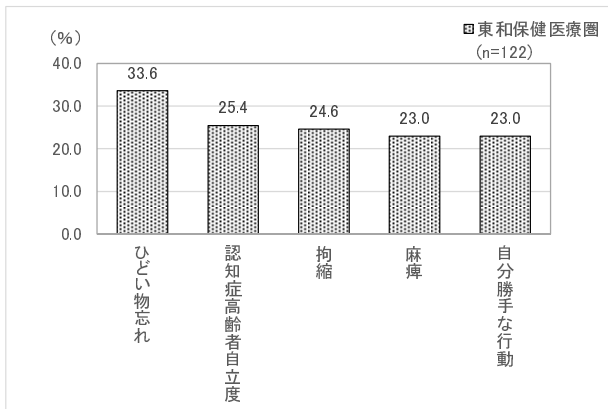
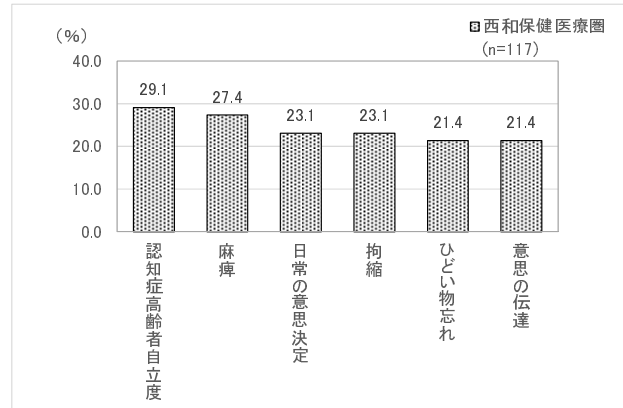
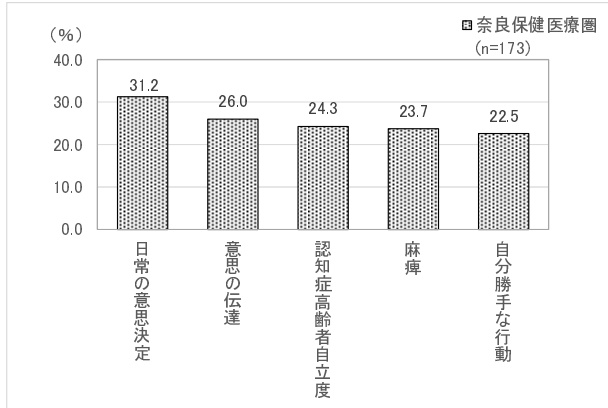
認定調査において判断に迷う項目の上位5位は「麻痺」(25.9%)、「日常の意思決定」(24.9%)、「認知症高齢者自立度」(24.4%)、「ひどい物忘れ」(23.2%)、「拘縮」(22.9%)となっています。

前回調査と比較すると、上位項目には有意な差は見られないものの、「特別な医療に関すること」(3.4%)が2.7ポイント有意に低下しています。



【圏域別の傾向】

判断に迷う項目について、圏域ごとの第1位をみると、奈良保健医療圏は「日常の意思決定」(31.2%)、西和保健医療圏は「認知症高齢者自立度」(29.1%)、東和保健医療圏は「ひどい物忘れ」(33.6%)、中和保健医療圏は「麻痺」(26.0%)、南和保健医療圏は「麻痺」(37.2%)となっており、圏域ごとに判断に迷う項目の順位が異なります。



※圏域ごとの上位5位の項目のみを表示。

③ 認定調査の精度を高めるうえで必要な取組

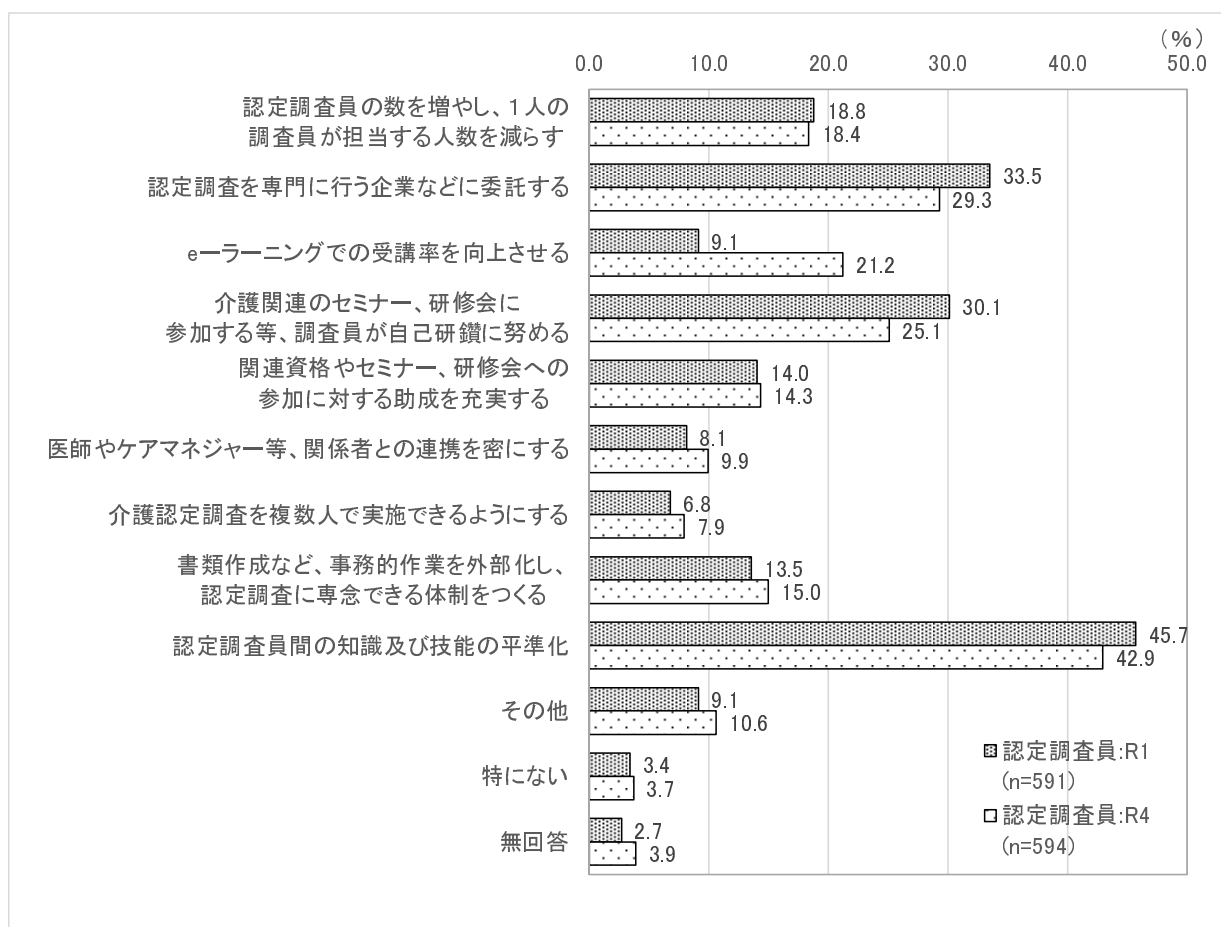
あなたは認定調査の精度を高めるために、今後どのような取り組みが必要だと思いますか。

(○は主なもの3つまで) 【K-問11】

【全体結果の傾向】

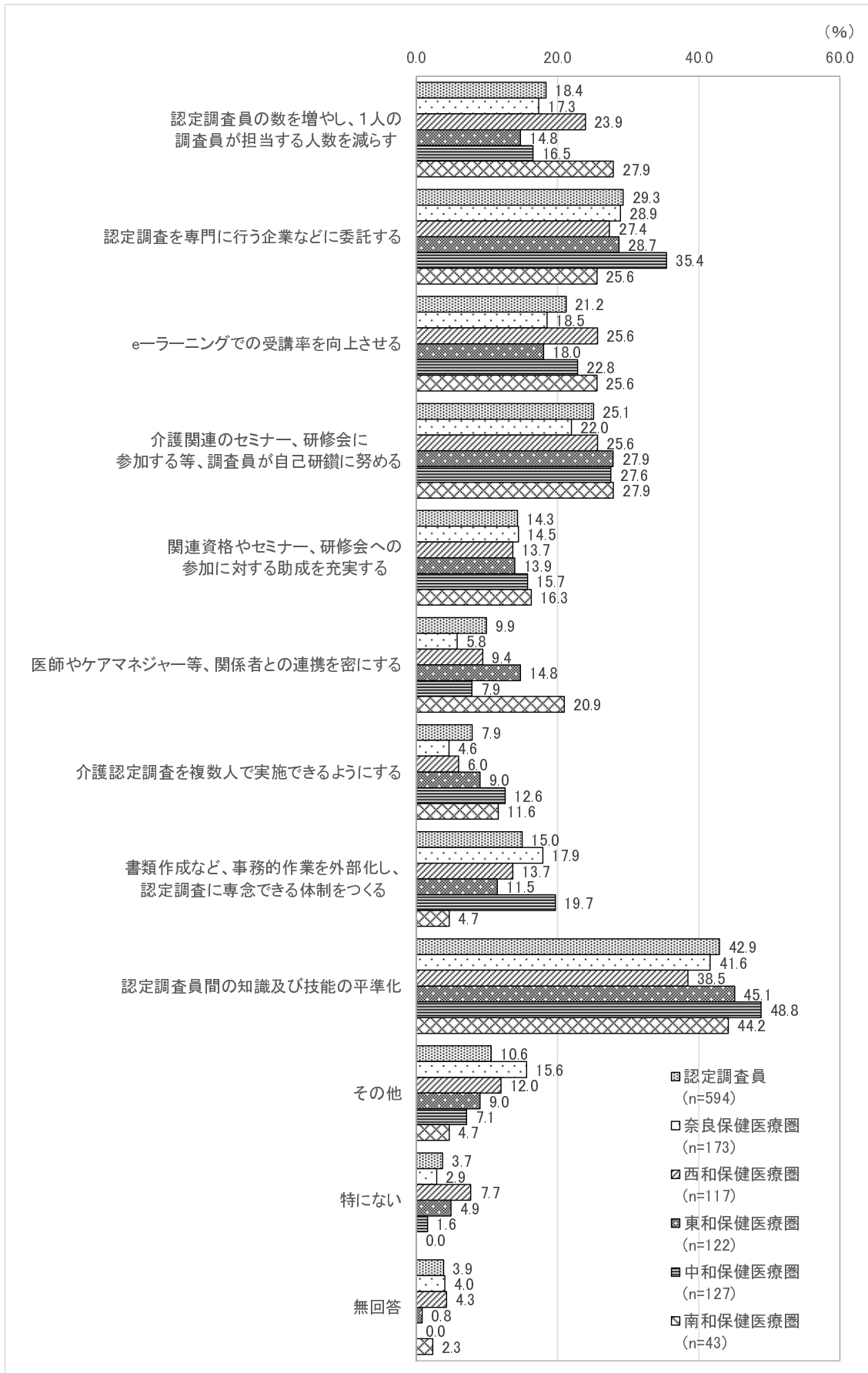
認定調査の精度を高めるために必要な取組の上位3位は「認定調査員間の知識及び技能の平準化」(42.9%)、「認定調査を専門に行う企業などに委託する」(29.3%)、「介護関連のセミナー、研修会に参加する等、調査員が自己研鑽に努める」(25.1%)となっています。

前回調査と比較すると、「eラーニングでの受講率を向上させる」(21.2%)が12.1ポイント有意に高くなっています。



【圏域別の傾向】

圏域別にみると、南和保健医療圏は「医師やケアマネジャー等、関係者との連携を密にする」(20.9%)が全体結果よりも有意に高くなっています。



④ 認定のバラツキの有無

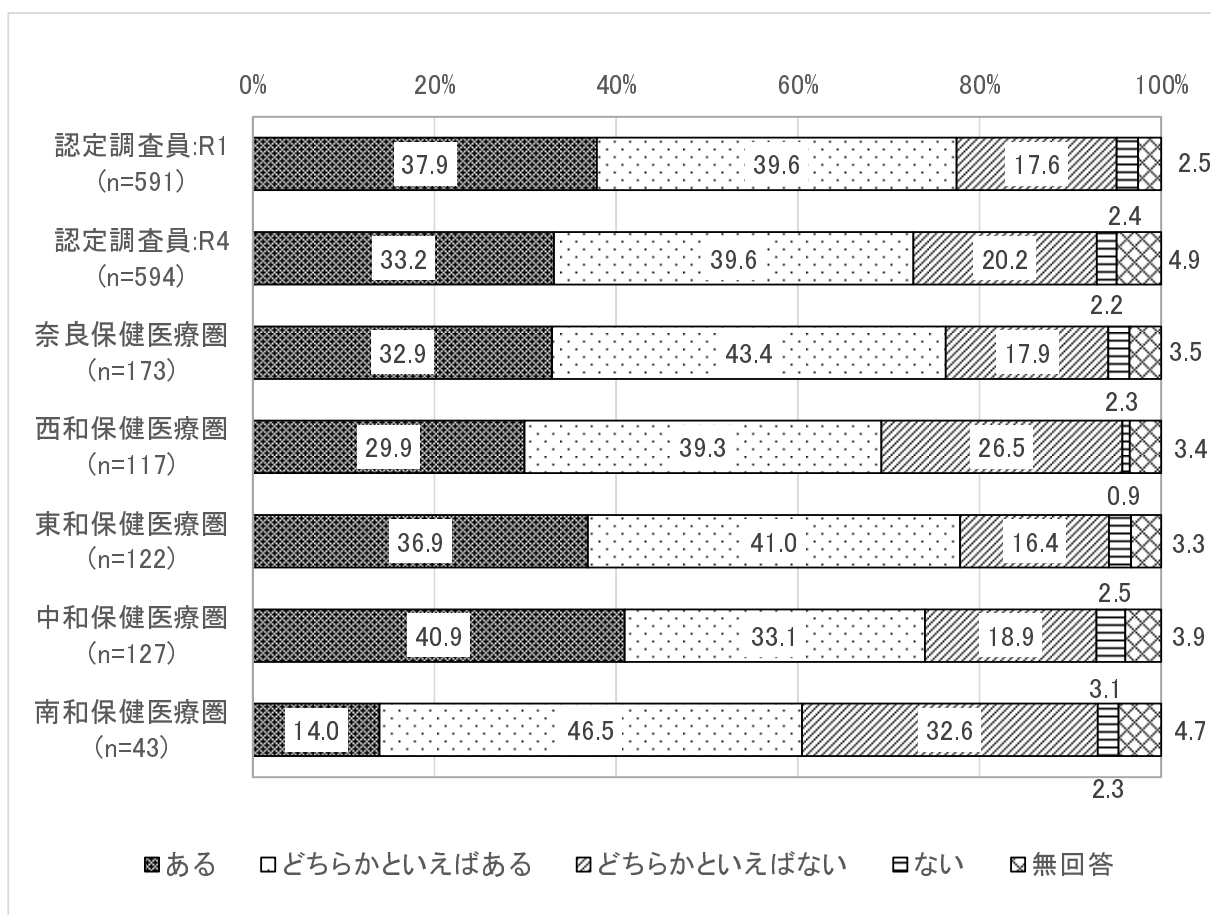
あなたは、認定のバラツキはありますか。(○は1つ) 【K-問12】

【全体結果の傾向】

認定のバラツキについて、「ある」が33.2%、「どちらかといえばある」が39.6%と、72.8%の認定調査員は認定に何らかのバラツキがあると感じており、前回調査と比較しても有意な差は見られません。

【圏域別の傾向】

圏域別にみると、南和保健医療圏は「ある」が14.0%と全体結果に比べて有意に低くなっていますが、「どちらかといえばある」の46.5%と合わせた、何らかのバラツキがある割合では有意な差は見られません。



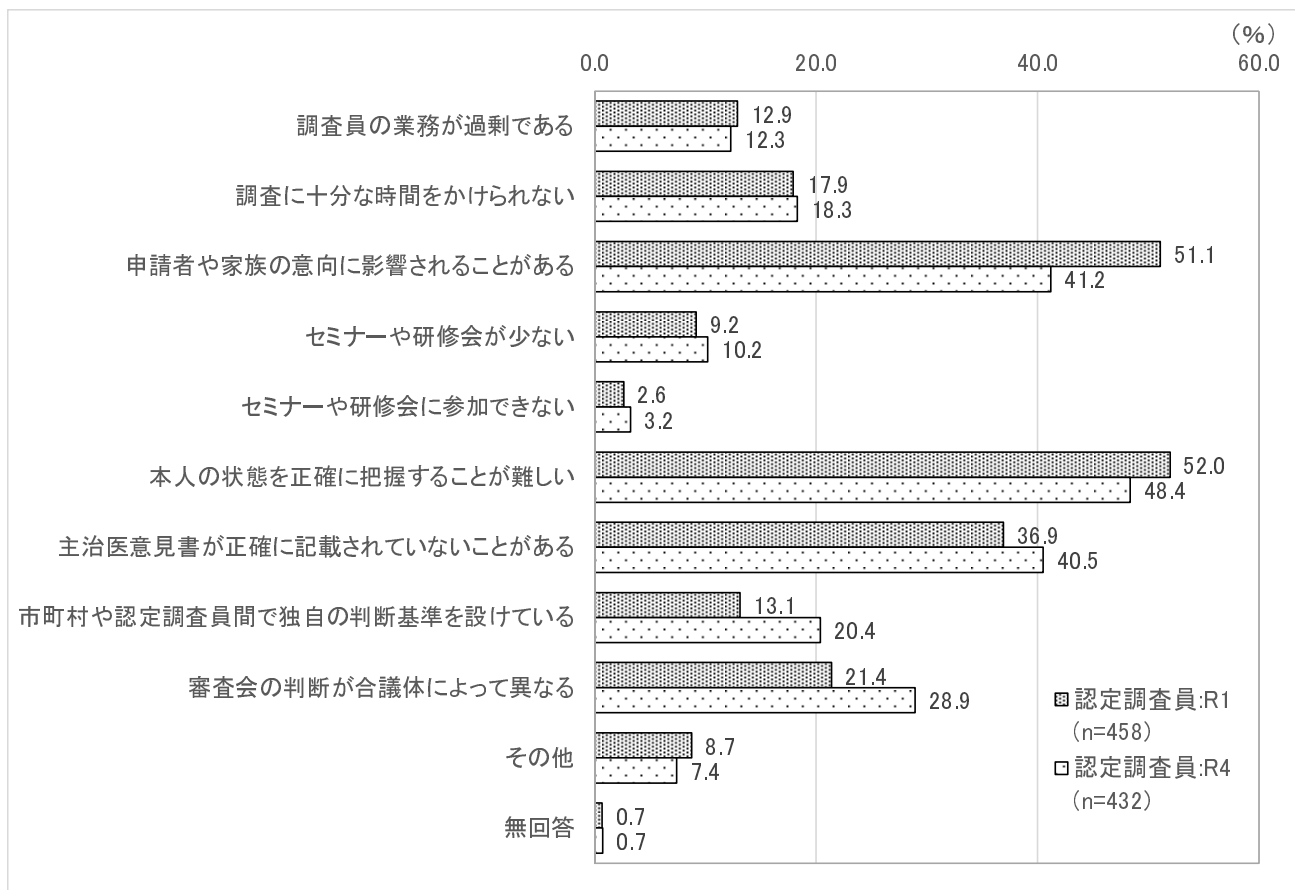
⑤ バラツキの原因

問 12 (p 202) で選択肢「1 ある」または「2 どちらかといえばある」とお答えの方にお聞きします。その原因は何とお考えですか。(〇は主なもの3つまで) 【K-問 13】

【全体結果の傾向】

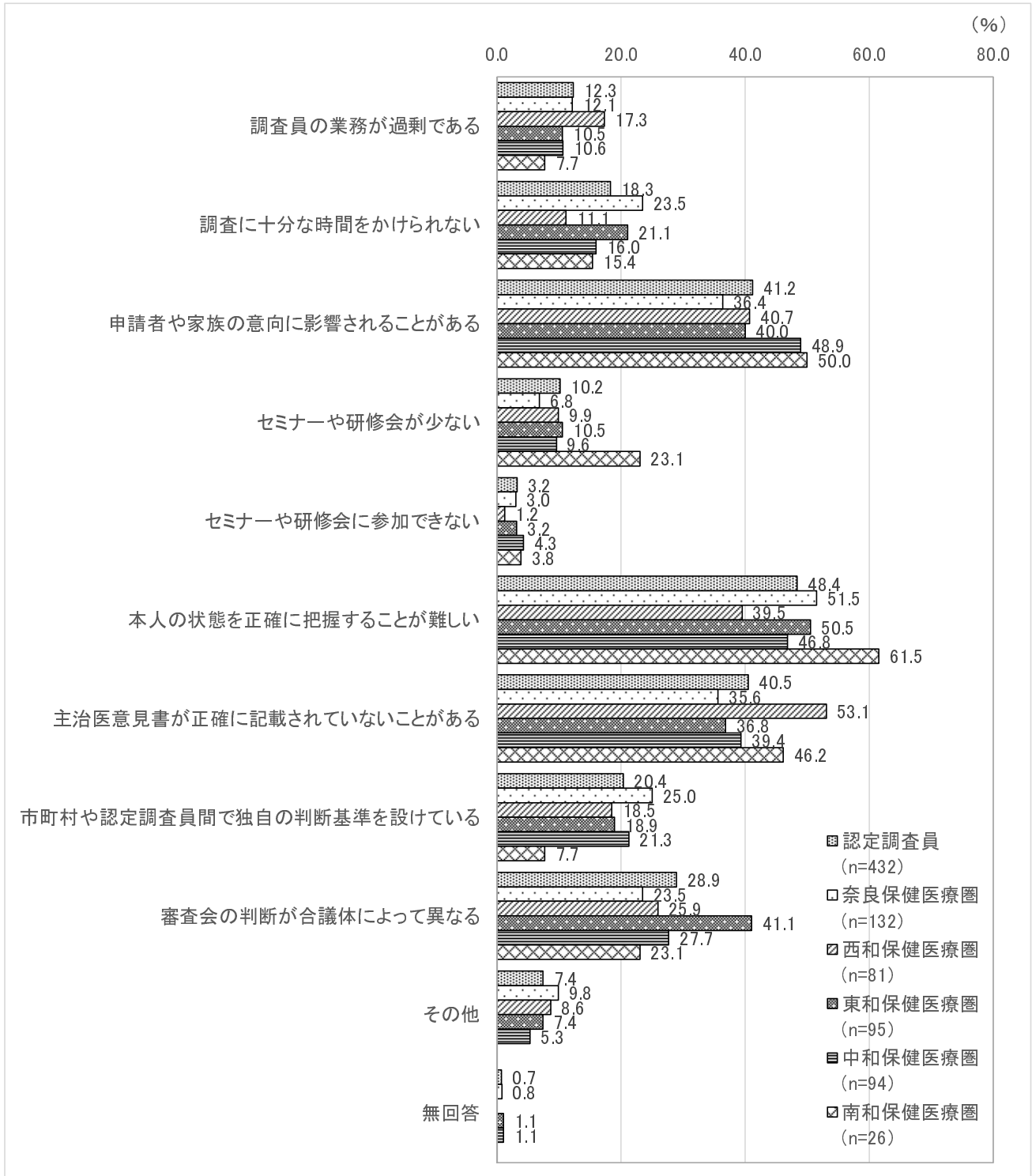
認定調査のバラツキがあると回答した認定調査員に対して、その原因を尋ねたところ、原因の上位3位は、「本人の状態を正確に把握することが難しい」(48.4%)、「申請者や家族の意向に影響されることがある」(41.2%)、「主治医意見書が正確に記載されていないことがある」(40.5%)となっています。

前回調査と比較すると、「申請者や家族の意向に影響されることがある」は有意に低くなっている反面、「市町村や認定調査員間で独自の判断基準を設けている」や「審査会の判断が合議体によって異なる」は有意に高くなっています。



【圏域別の傾向】

圏域別にみると、西和保健医療圏では「主治医意見書が正確に記載されていないことがある」が、東和保健医療圏では「審査会の判断が合議体によって異なる」が全体結果に比べて有意に高くなっています。



(2) 介護給付の適正化

① 要介護度の変化

あなたの要介護度は、1年前と比べてどのように変化していますか。(○は1つ) 【D-問3】

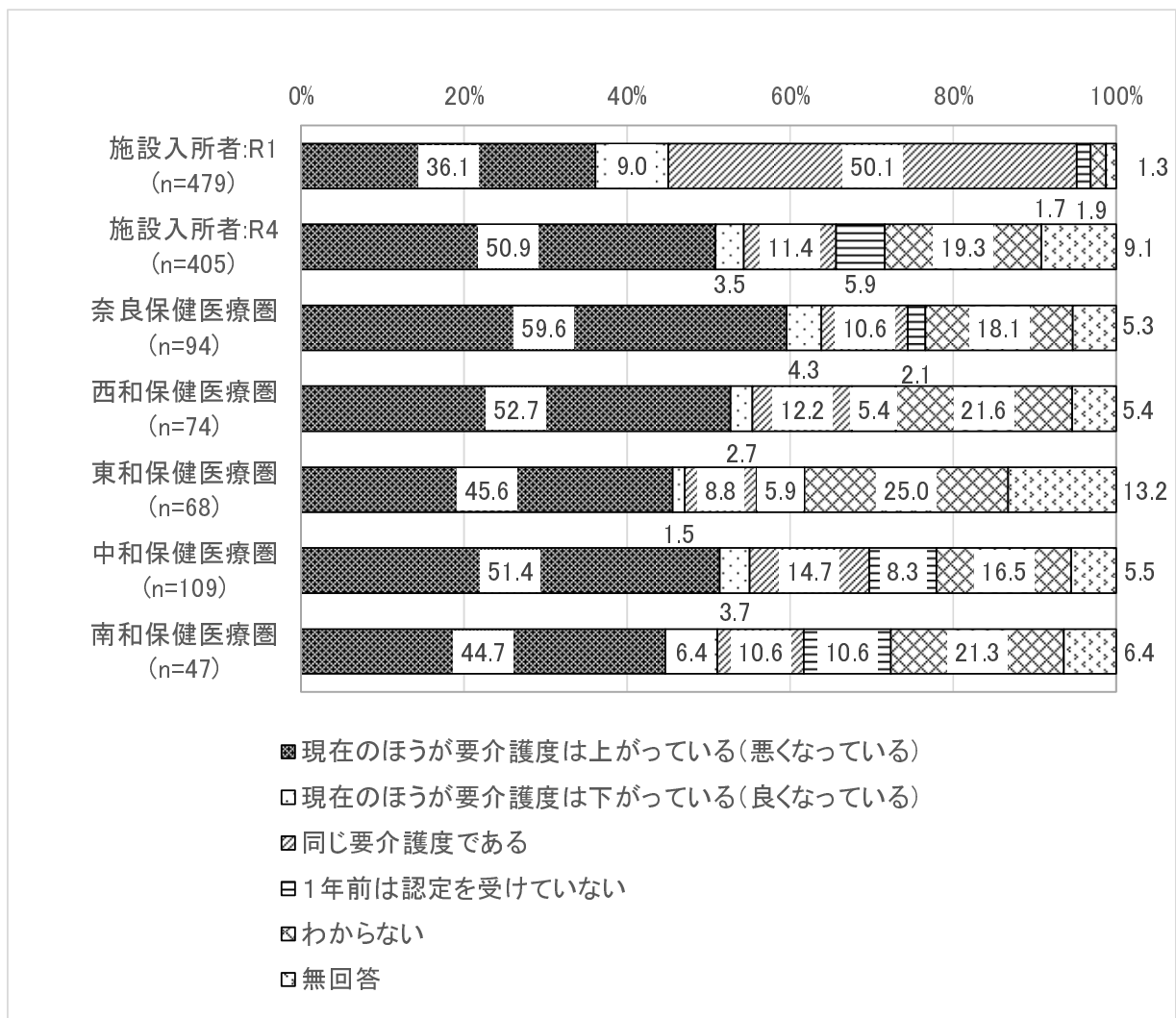
【全体結果の傾向】

施設入所者の1年前と比べた要介護度の変化は、「現在のほうが要介護度は上がっている(悪くなっている)」が50.9%、次に「わからない」が19.3%、「同じ要介護度である」が11.4%となっています。

前回調査と比較すると、「現在のほうが要介護度は上がっている(悪くなっている)」が14.8ポイント有意に高くなっている反面、「同じ要介護度である」は38.7ポイント有意に低くなっています。

【圏域別の傾向】

圏域別にみると、いずれの圏域でも全体結果と比較して有意な差は見られません。



② ケアマネジャーがケアプラン作成時に困ること

あなたは、ケアプランを作成する際、どのようなことで困っていますか。(〇はいくつでも)

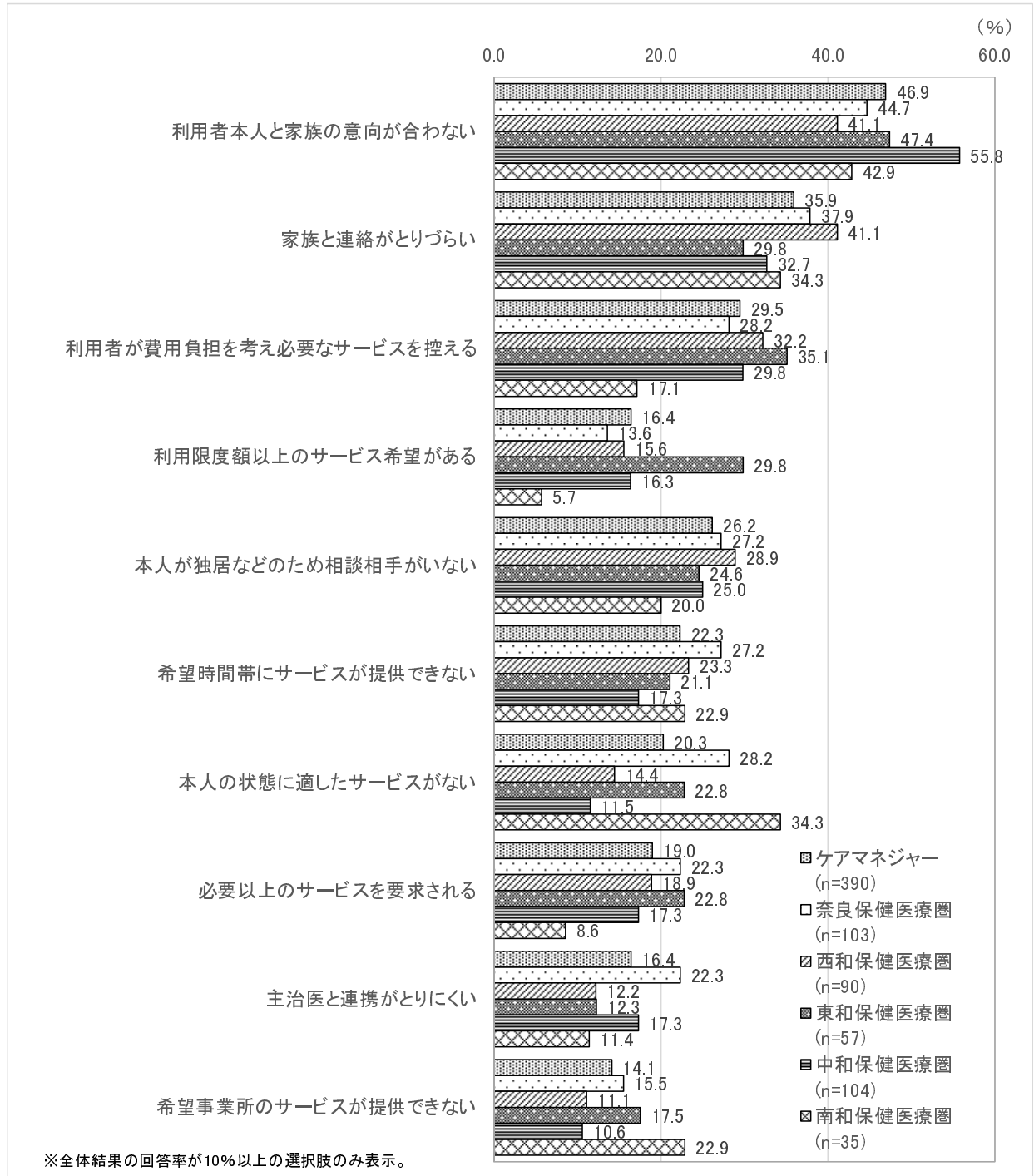
【G-問8】

【全体結果の傾向】

ケアマネジャーに対し、ケアプランを作成する際に困ることについて尋ねたところ、上位3位は「利用者本人と家族の意向が合わない」(46.9%)、「家族と連絡がとりづらい」(35.9%)、「利用者が費用負担を考え必要なサービスを控える」(29.5%)となっています。

【圏域別の傾向】

圏域別にみると、東和保健医療圏の「利用限度額以上のサービス希望がある」(29.8%)が全体結果よりも有意に高くなっています。



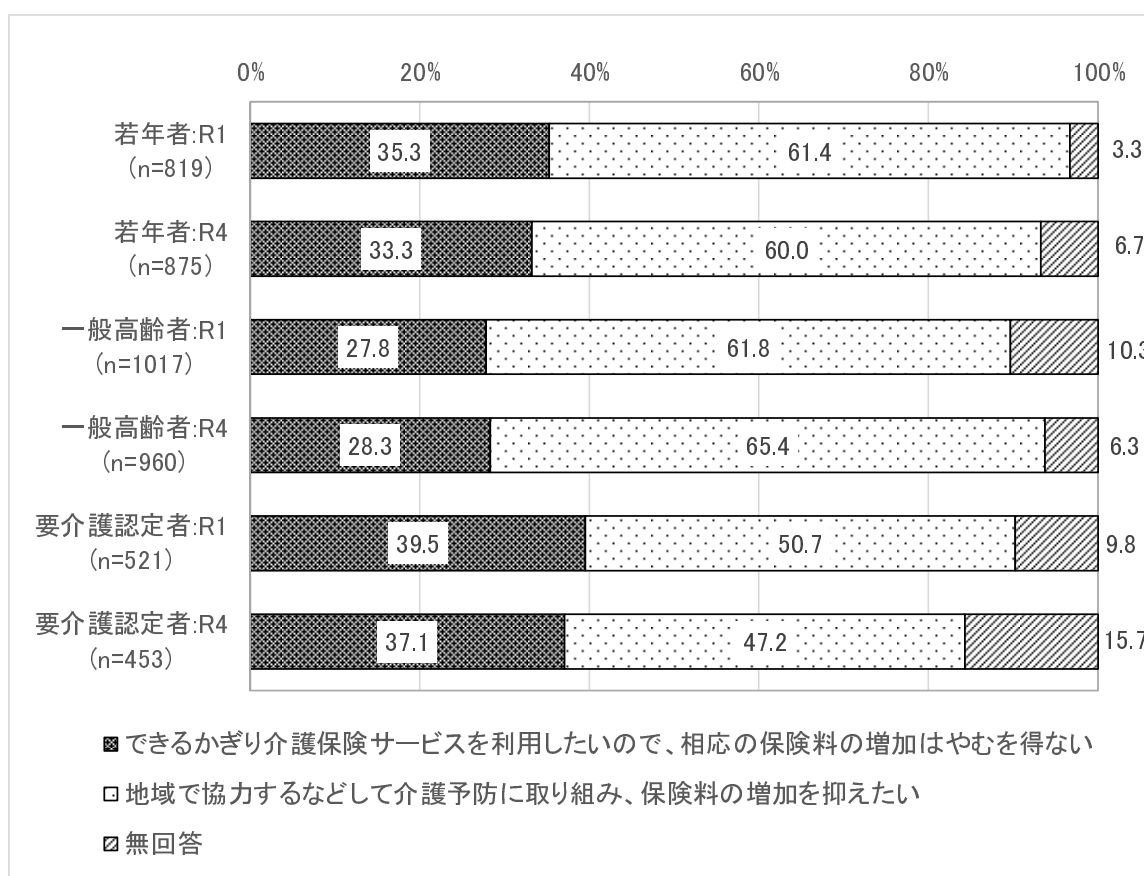
③ 介護保険料負担に対する考え

介護保険料は、2000年の制度開始時から全国平均で約2倍に増加しており、高齢化が進み、介護保険サービスの利用が増えるにつれて、今後も増加していくことが見込まれています。次のうち、あなたの考えに近いのはどちらですか。(どちらかに○) 【A-問 35、B-問 57、C-問 55】

【全体結果の傾向】

若年者、一般高齢者及び要介護認定者のいずれにおいても、「地域で協力するなどして介護予防に取り組み、保険料の増加を抑えたい」という回答が、「できるかぎり介護保険サービスを利用したいので、相応の保険料の増加はやむを得ない」という回答を上回っており、要介護認定者や若年者よりも一般高齢者でこの傾向が強くなっています。

前回調査と比較すると、いずれの項目においても有意な差は見られません。



【圏域別の傾向】

圏域別にみると、いずれの圏域でも前回調査と比較しても有意な差は見られません。

